

配管、ダクト加工

目次

1.設定	2
加工の設定	
フランジの設定	
2.定尺の編集	9
定尺で割る	
指定長さで割る	
長さを変更する	
3.ユニット図の作成	14
ユニット図のナンバリング	
ユニット図の出力	
ビューの方向を変更する	
ユニット図のテンプレート編集	
4.加工集計表の作成	20
加工集計のナンバリング	
加工集計表を作成する	
加工集計のテンプレート編集	
5.角ダクト単品図の作成	24
定尺長さの設定	
ダクト単品図のナンバリング	
ダクト単品図の出力	
ダクト単品図のテンプレート編集	
6.スパイラルダクト加工図の作成	30
定尺長さの設定	
定尺で割る／指定長さで割る／長さを変更する	
スパイラルダクト加工図のナンバリング	
スパイラルダクト加工図の出力	
スパイラルダクト加工図のテンプレート編集	

更新日：2021/4/8 Rebro2021 対応

1.設定

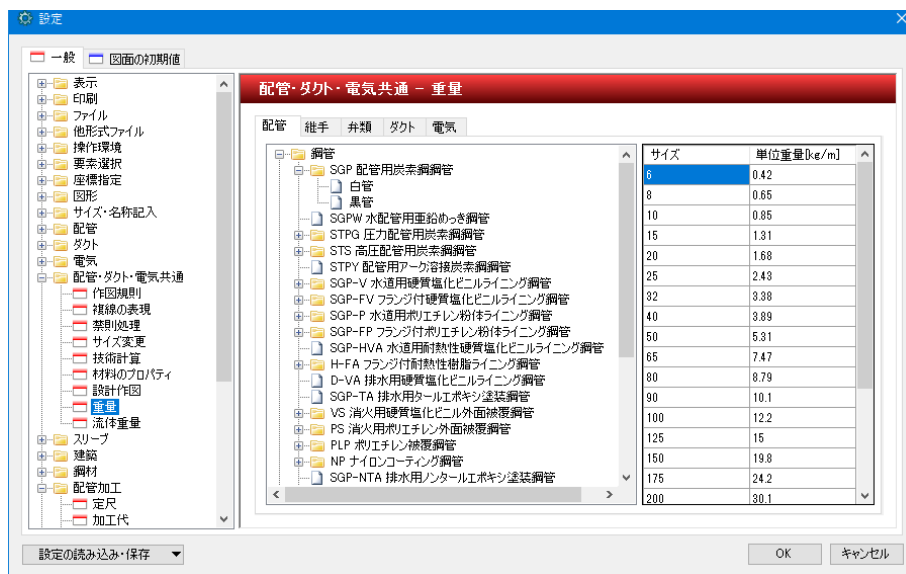
加工の設定

配管の定尺・加工代の設定や配管・ダクトの加工番号などの設定は、[ホーム]タブ-[設定]-[一般]タブで行います。

[配管・ダクト・電気共通-重量]

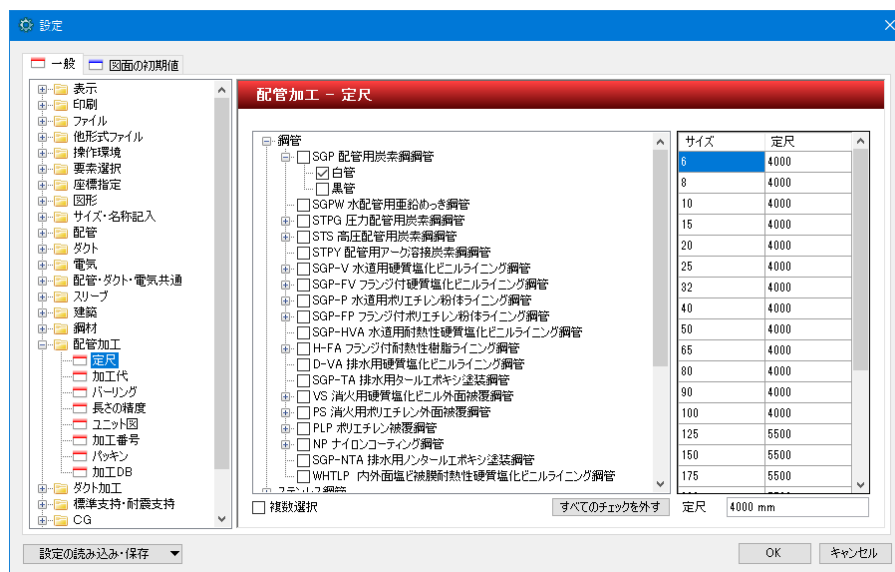
配管・継手・弁類の重量を設定します。

ここで設定した内容は、加工集計、ユニット図の重量に反映されます。



[配管加工-定尺]

管材ごとに定尺を設定します。



[配管加工-加工代]

ねじ込み代、差込み代、フレア加工代、溶接代の設定を行います。ここで設定した加工代は、拾い集計(実長)、加工集計、ユニット図の管の実長に反映されます。

サイズ	ねじ込み(マス)
6	6
8	8
10	9
15	11
20	12
25	14
32	16

Memo
 [管材によらず厚みを一定とする]にチェックを入れると、ルーズフランジの折り返しの厚みを管材によらずすべて配管用炭素鋼鋼管(白)の厚みとします。チェックを外すと、作図した管材の厚みとします。

サイズ	ねじ込み(マス)
6	6
8	8
10	9
15	11
20	12
25	14

[配管加工-バーリング]

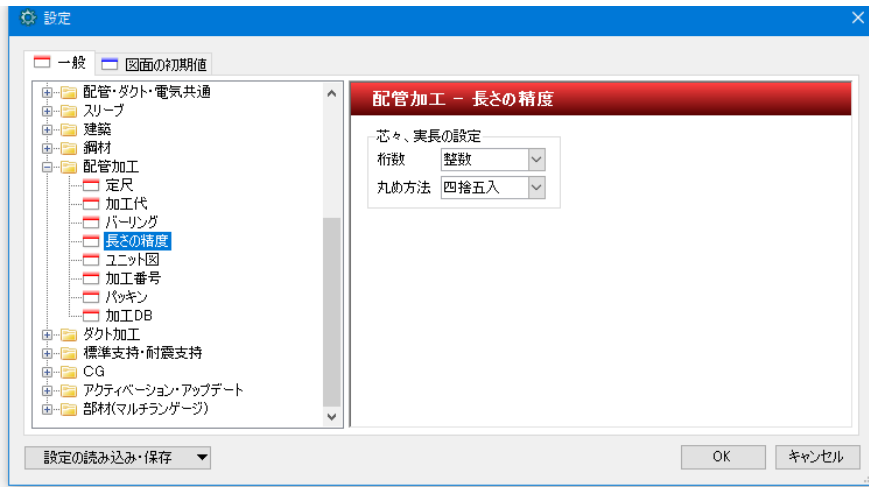
メイン管のサイズごとにバーリングの高さを設定します。

メイン管のサイズ	バーリングの高さ
6	8
8	8
10	8
15	8
20	8
25	8
32	8
40	8
50	8
65	8
80	8
90	8
100	8
125	8
150	8

※作図した配管のバーリングの高さは、[プロパティ]で編集します。

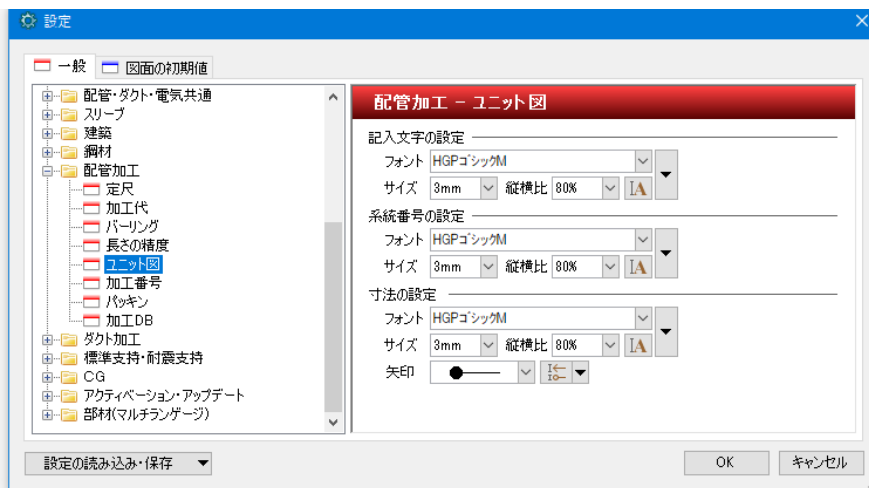
[配管加工-長さの精度]

加工集計、ユニット図の配管長さの桁数、丸め方法を設定します。



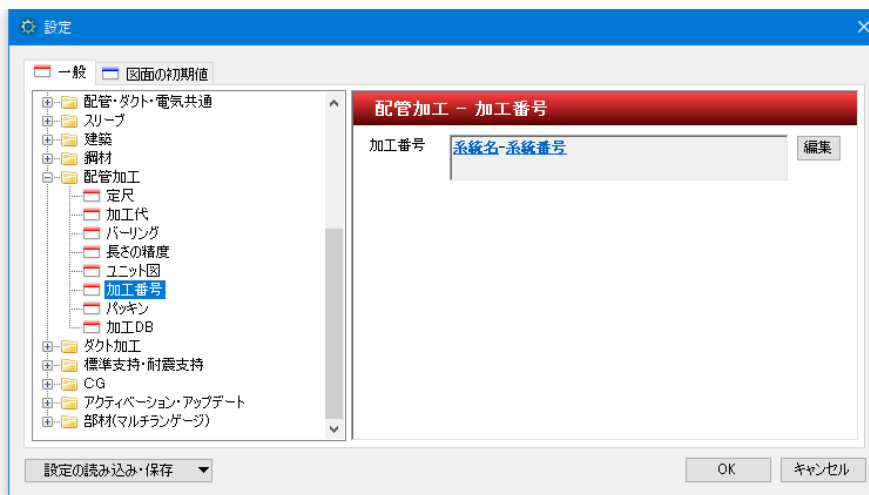
[配管加工-ユニット図]

ユニット図に記入する文字、寸法線を設定します。



[配管加工-加工番号]

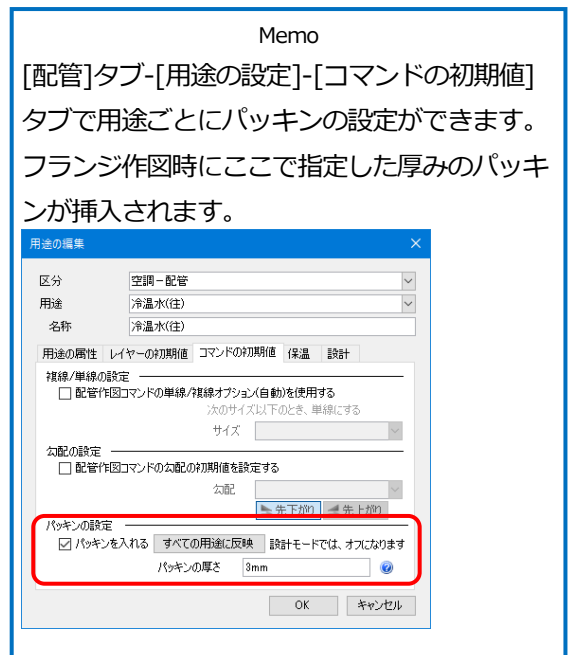
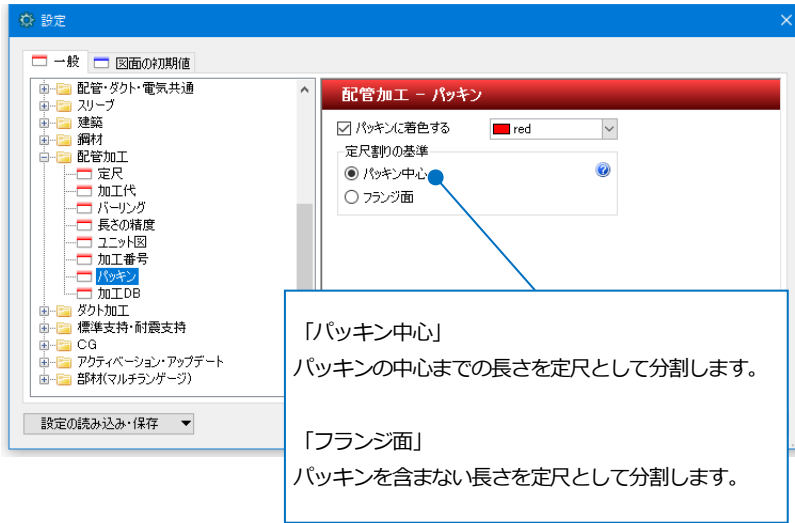
ナンバリングした配管に表示する加工番号の記入内容を設定します。



[配管加工-パッキン]

パッキンに着色する色を設定します。

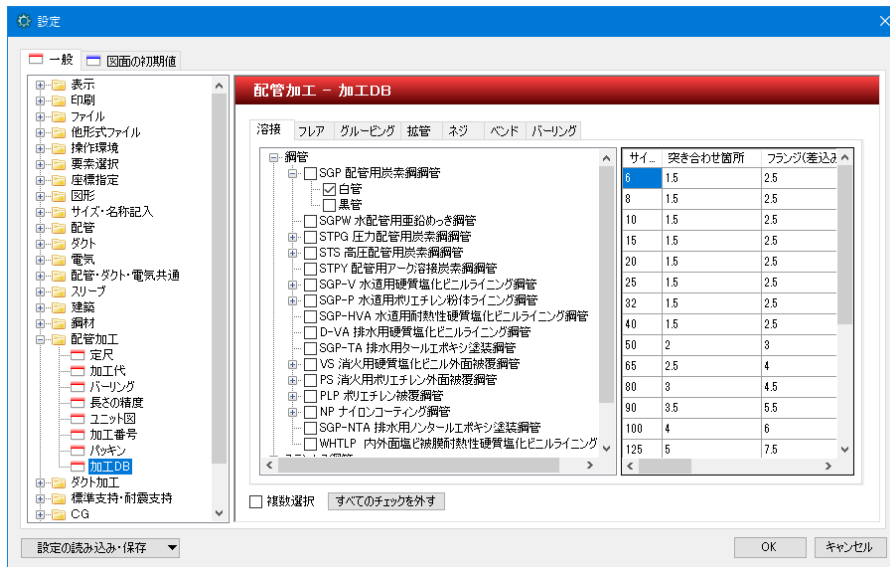
また、[加工]タブ-[定尺の編集]コマンドで「芯々で分割」を選択した時の基準を選択します。



[配管加工-加工 DB]

加工 DB を管材・サイズごとに設定します。ユニット図に集計値が出力されます。

溶接、フレア、グルーピング、拡張、ネジ、バンド、バーリングに対して設定することができます。



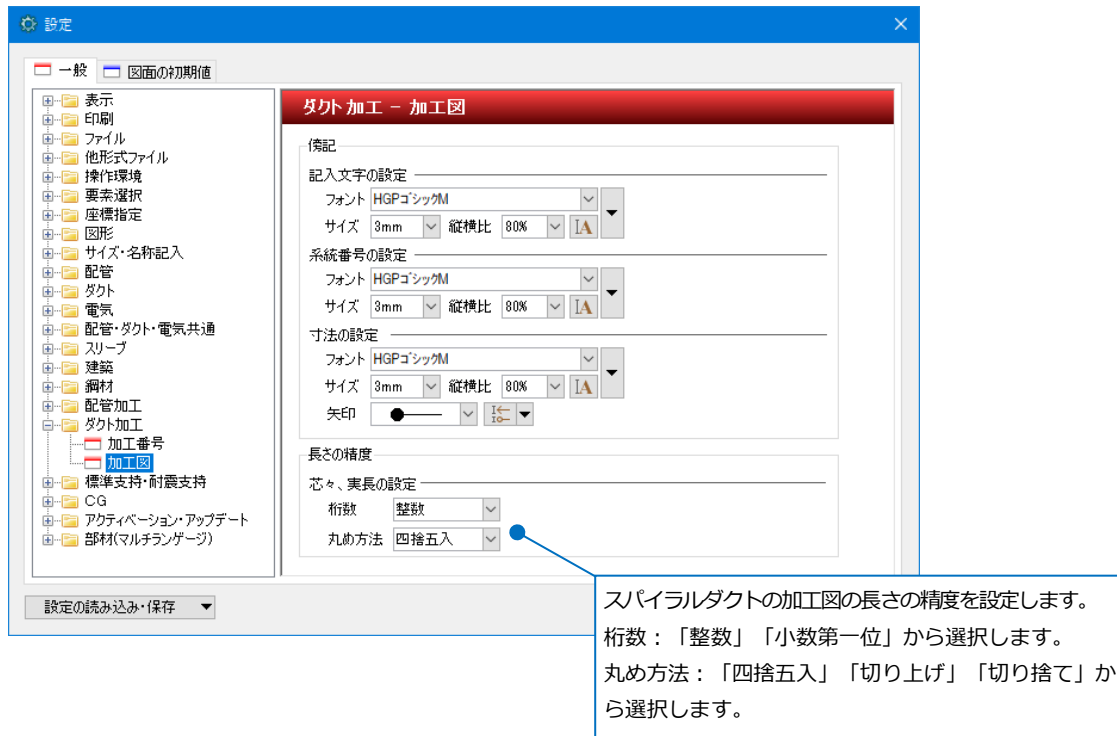
[ダクト加工-加工番号]

ナンバリングしたダクトに表示する加工番号の記入内容を設定します。



[ダクト加工-加工図]

スパイラルダクトの加工図に記入する文字、寸法線を設定します。また、長さの精度も設定します。



フランジの設定

定尺位置にフランジで管割するには[材料の設定]でフランジを設定します。

- 1 [配管]タブ-[材料の設定]をクリックします。



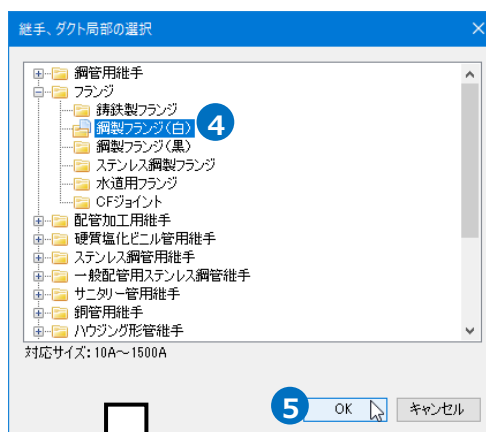
- 2 フランジを追加するサブセットを選択します。



- 3 [使用する継手、ダクト局部]の[追加]をクリックします。

- 4 挿入するフランジを選択します。

- 5 [OK]をクリックします。
→フランジが追加されます。



- 6 使用するフランジの種類を指定します。
フランジの行を選択し、[配置方法]をクリックします。

Memo

継手名称の上で右クリックすると、コンテキストメニューが開き、ここでも[配置方法]を起動することができます。

- 7 [直進]に表示されたフランジをクリックし、[使用する部材の設定]ダイアログからフランジの種類を選択します。

使用する継手、タクト局部

名称	条件	備考
鋼管継手(白)	サイズ 100A以下	対応サイズ: 6A~200A
溶接継手(白)	サイズ 125A以上	対応サイズ: 15A~1500A
ソケット		対応サイズ: 6A~200A
バネリング(鋼管)		対応サイズ: 6A~500A
鋼製フランジ(白)		対応サイズ: 10A~1500A

追加 変更 6 配置方法 条件の編集 ↑ ↓

部材の配置方法

サブセット名: 鋼管(白)+ねじ/溶接
鋼製フランジ(白)

使用する部材

直進

鋼製スリップオン溶接式フランジ(板フランジ) JIS5K

端部

クリック

追加 削除 ↑ ↓

備考: 接続口の入と出が一直線の部材。ソケット等

OK キャンセル

使用する部材の設定

直進

- スリップオン溶接式フランジ(板フランジ)
- スリップオン溶接式フランジ(ハブフランジ)
- ソケット溶接式フランジ
- 突合せ溶接式フランジ
- 適合形フランジ
 - JIS5K
 - JIS10K
 - 10K(ハブなし)
 - JIS16K
 - JIS20K
 - 20K(ハブなし)
- 割付フランジ
- ねじ込み式フランジ

7

OK キャンセル

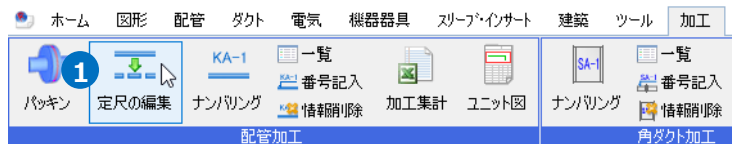
2. 定尺の編集

「機械室(ユニット図).reb」を開きます。

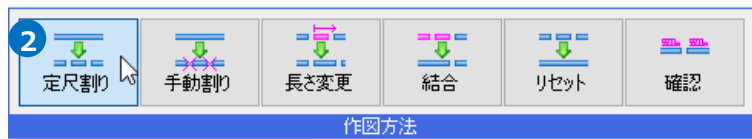
定尺で割る

指定した配管を定尺長さで管割します。

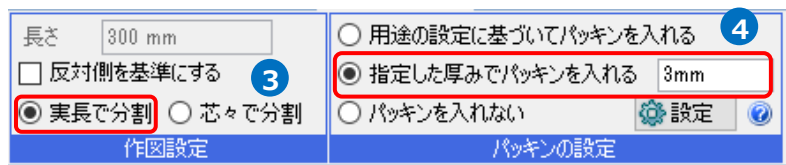
- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[定尺の編集]をクリックします。



- 2 [定尺割り]を選択します。



- 3 定尺割りの基準を選択します。



Memo

「実長で分割」

配管の加工代を含めた長さを定尺で分割します。

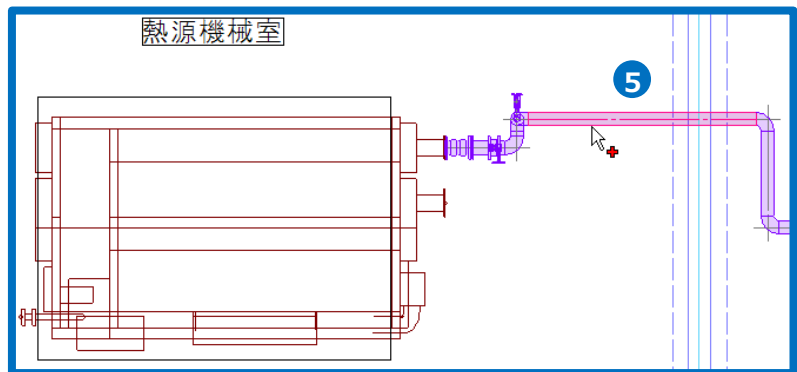
「芯々で分割」

配管と継手の交点までの長さを定尺で分割します。

- 4 「指定した厚みでパッキンを入れる」を選択すると指定したルートของ法兰ジにパッキンが追加されます。

Memo

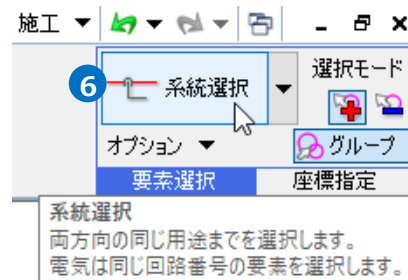
「用途の設定に基づいてパッキンを入れる」は[配管]タブ-[用途の設定]の[コマンドの初期値]-[パッキンの設定]で入力した厚みを参照します。



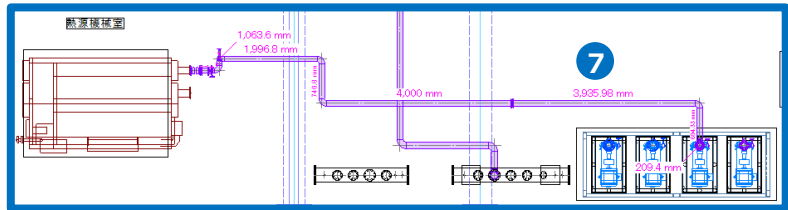
- 5 配管を一本クリックします。

- 6 [系統選択]をクリックします。

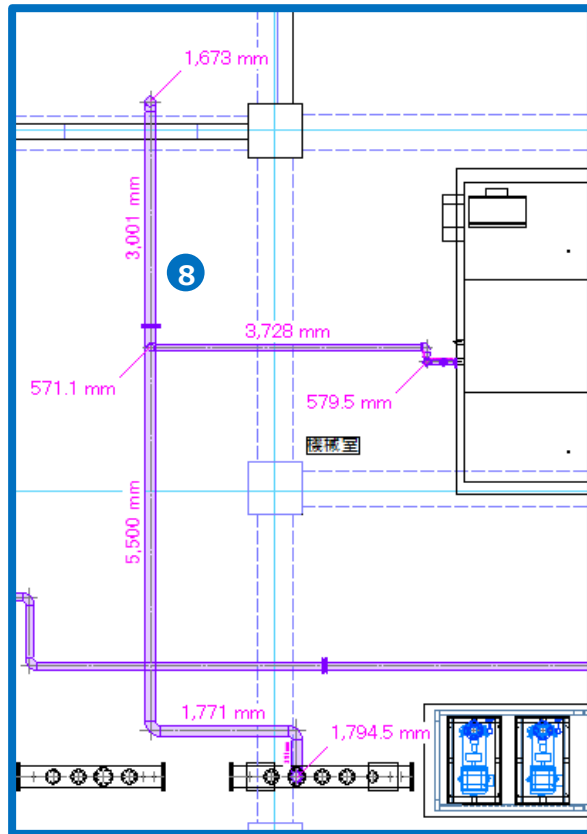
→選択した冷温水(還)の系統がすべて選択されます。



- 7 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。
→定尺で分割されます。

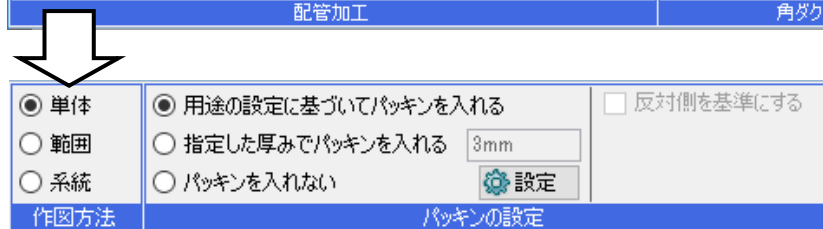
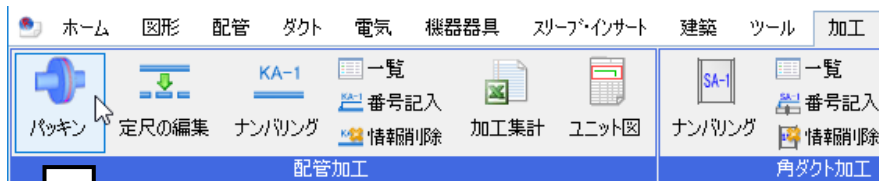


- 8 同様にヘッダーと繋がるルートも[定尺割り]をします。



● 補足説明

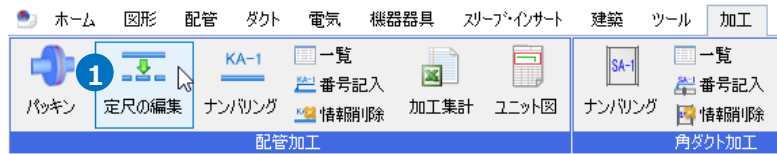
[加工]タブ-[パッキン]でルート上のパッキンの追加、削除、厚みの変更ができます。



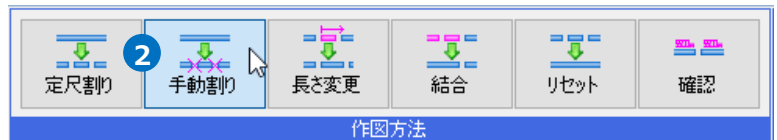
指定長さで割る

指定した配管を[長さ]に入力した値で管割します。

- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[定尺の編集]をクリックします。



- 2 [手動割り]を選択します。



- 3 [長さ]を「300mm」と入力します。

- 4 管割の基準を選択します。

Memo

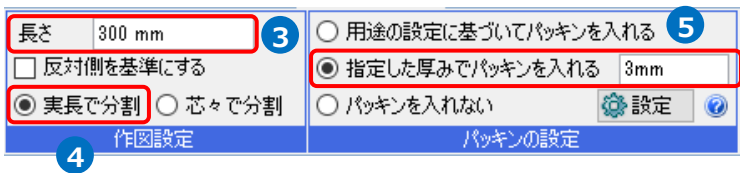
[反対側を基準にする]にチェックを入れると、配管の作図方向と反対側から管割を行います。

長さ

反対側を基準にする

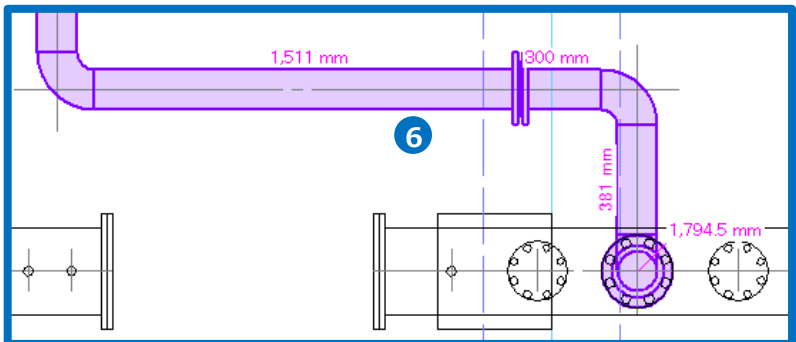
実長で分割 芯々で分割

作図設定

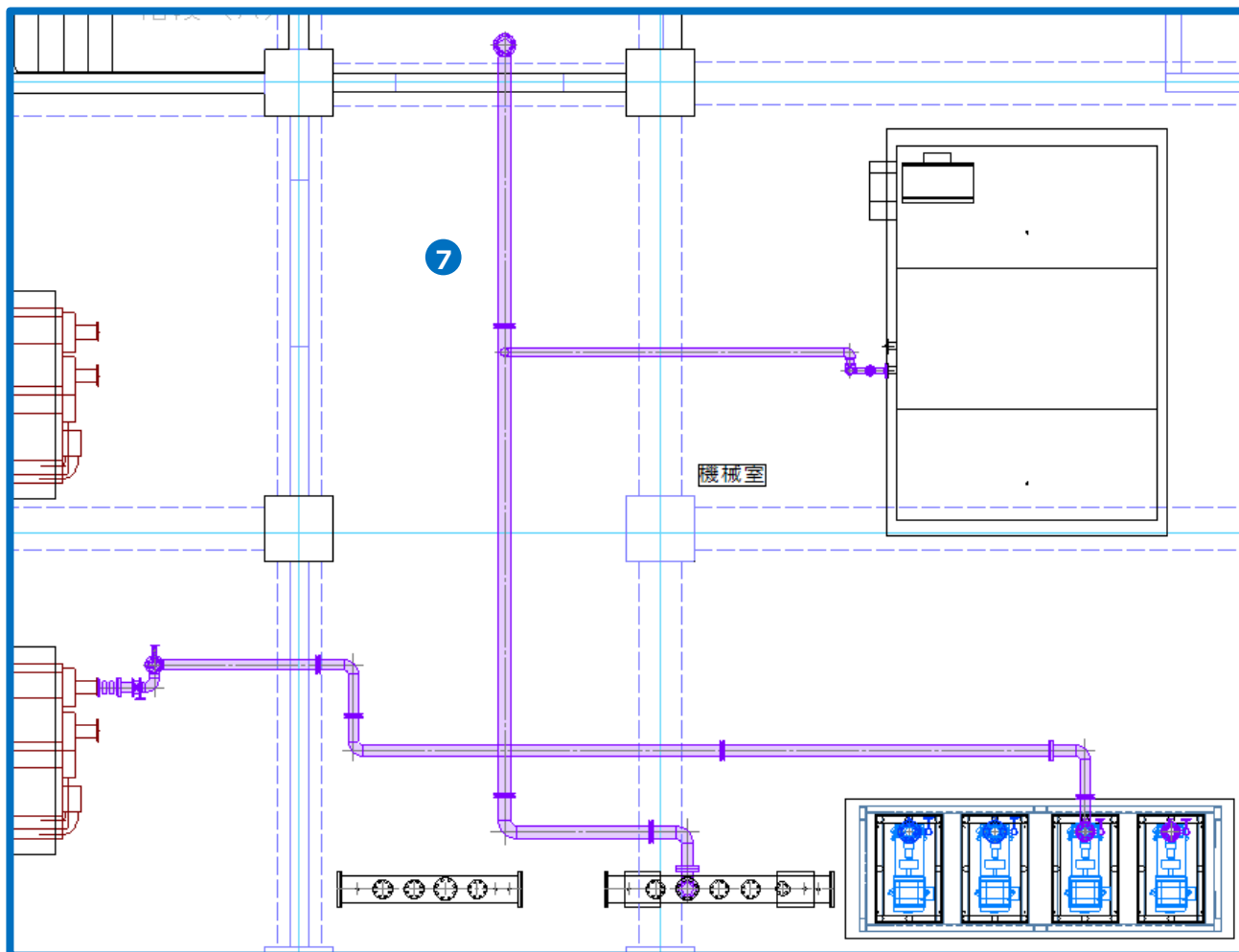


- 5 「指定した厚みでパッキンを入れる」を選択し、「3mm」と入力します。

- 6 配管を選択します。
→指定した長さで管割されます。



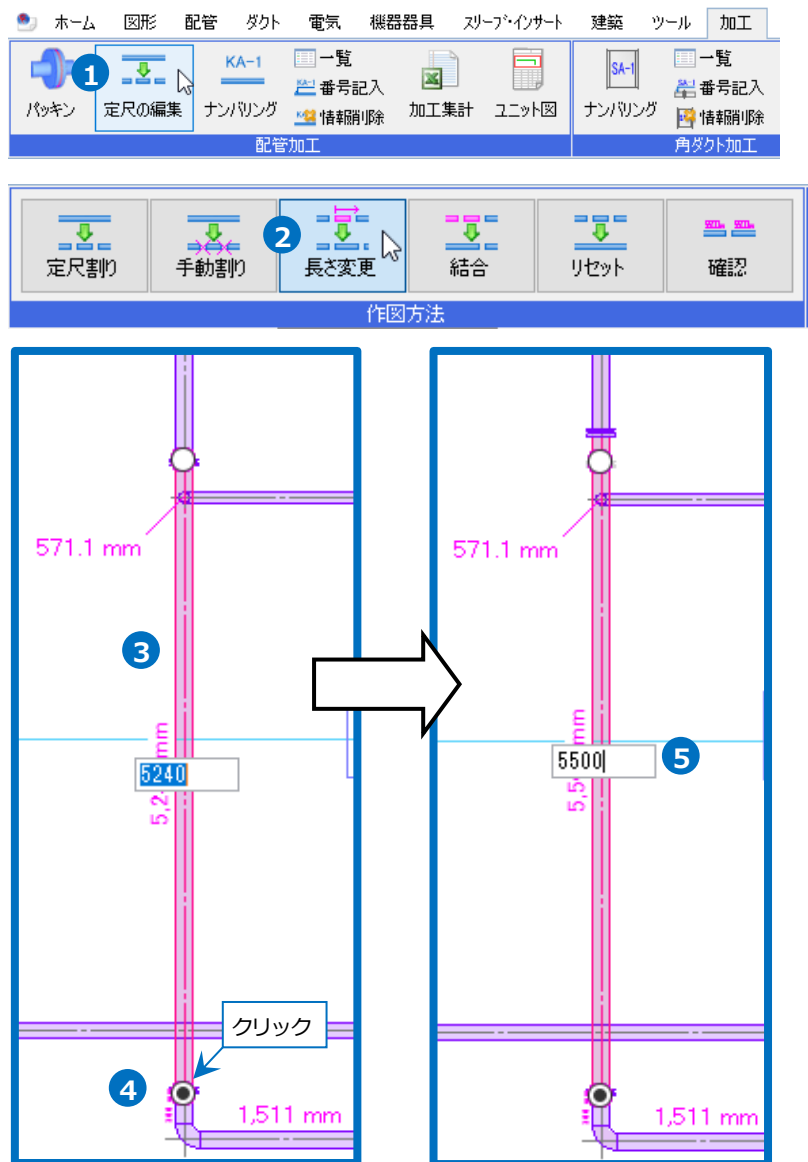
7 同様に他の配管も手動割りを行います。



長さを変更する

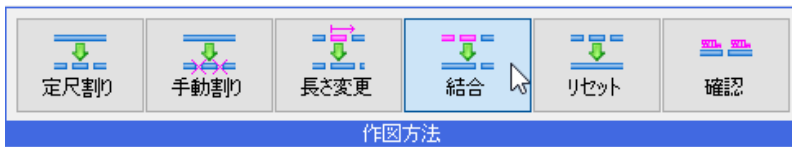
指定した配管の長さを変更できます。

- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[定尺の編集]をクリックします。
- 2 [長さ変更]を選択します。
- 3 配管を選択します。
- 4 固定位置を選択します。
- 5 変更長さ「5500」と入力します。
- 6 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。



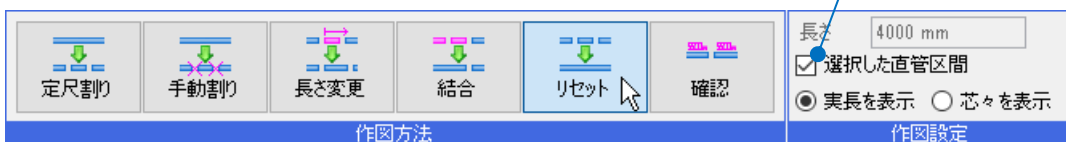
[結合]

[定尺割り]や[手動割り]をした配管を2本指定するとその間のルートをすべて結合します。



[リセット]

指定した配管の系統の定尺割りをすべて解除します。



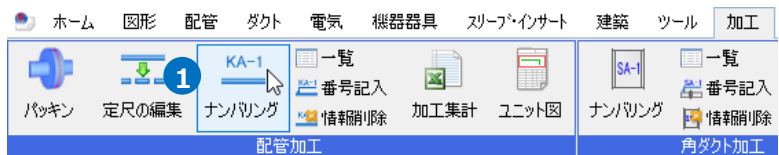
[選択した直管区間]にチェックを入れると指定した配管の直管区間のみ定尺割りが解除されます。

3.ユニット図の作成

ユニット図のナンバリング

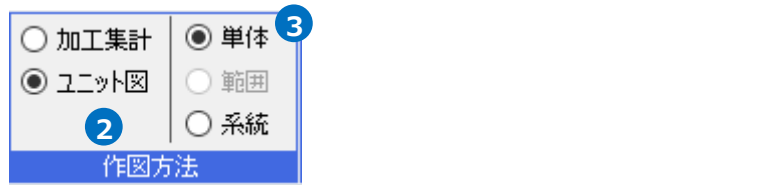
ユニット図を作成するための系統名、系統番号を設定します。

- ① [加工]タブ-[配管加工]-[ナンバリング]をクリックします。



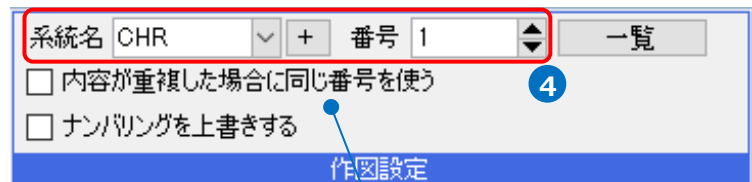
- ② 「ユニット図」を選択します。

- ③ 「単体」を選択します。



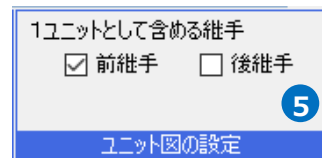
Memo
「系統」を選択してナンバリングをするとフランジ、ハウジング形管継手、BK ジョイントなどの締め付け接合をする継手、グロージョイント、鉄ソケット、サドルの枝管でユニットを分割します。

- ④ 系統名「CHR」、番号「1」と入力します。



[内容が重複した場合に同じ番号を使う]にチェックを入れると、選択した系統内で管材、サイズ、長さ、継手の角度、前後の部材が同じ配管には同じ番号をつけます。

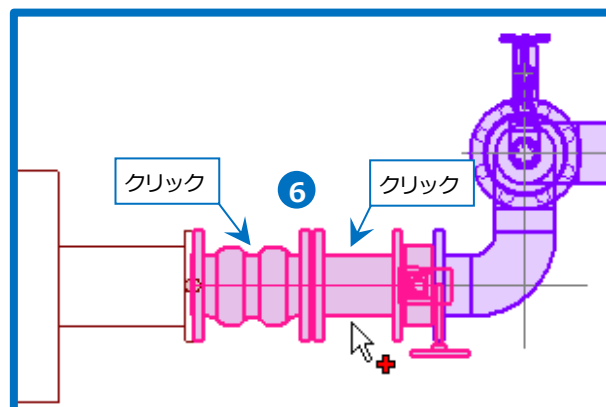
- ⑤ 配管の端部に接続している継手で、ユニットに含める継手にチェックを入れます。



- ⑥ 1ユニットとなる配管や部材を選択します。

- ⑦ コンテキストメニューから[確定]をクリックします。

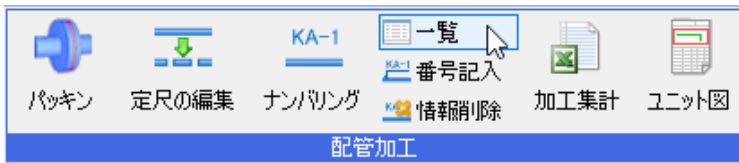
- ⑧ 続けて残りの配管もユニットごとに選択し、番号を設定します。
→ユニットごとに番号が繰り上ります。



- 補足説明

[系統番号の一覧]

ナンバリングでつけた系統名と番号を確認、編集できます。



系統番号の一覧

系統名: CHR-4

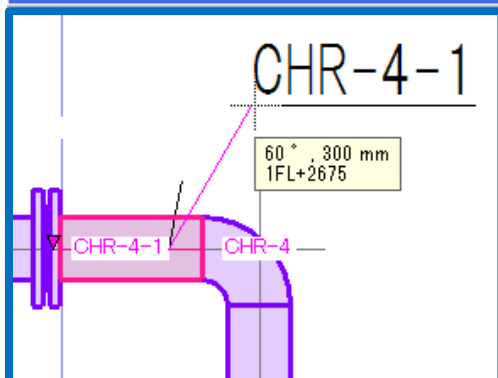
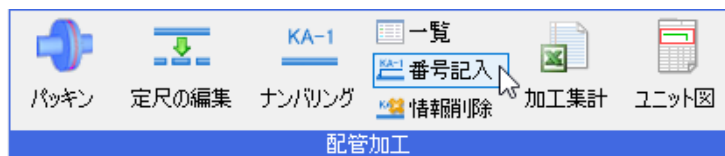
番号	長さ(実長)	前部材	後部材	個数
	0mm	LF10K100		1
	0mm	LF10K100		1
	0mm	内パッキン(10K)		1
	0mm	L100		1
1	300mm	L100	内パッキン(10K)	1
2	481mm	内パッキン(10K)	L100	1

Buttons: 番号+1, 番号-1, 番号削除, OK, キャンセル

[配管加工の番号記入]

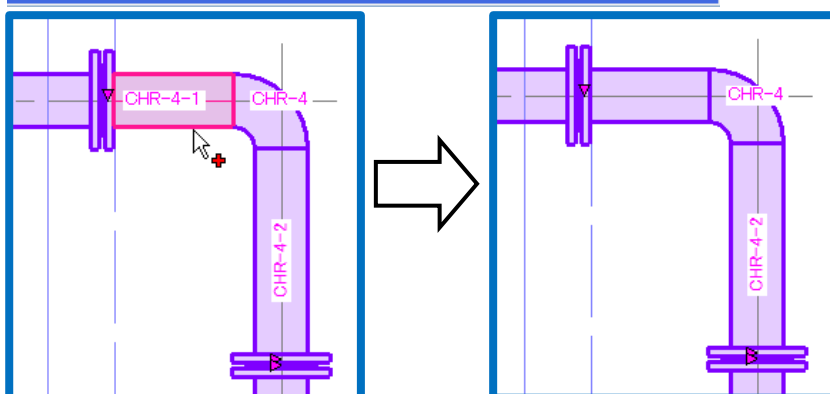
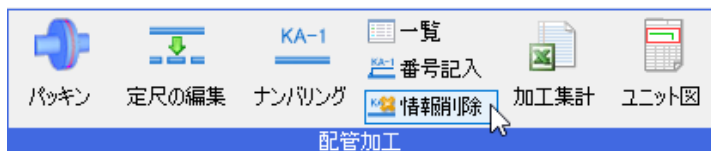
ナンバリングの番号は[ナンバリング]コマンドを終了すると非表示になります。

[加工]タブ-[配管加工]-[番号記入]のコマンドで図面に表記します。



[配管加工の情報削除]

指定した配管の系統名と番号を削除します。[系統番号の一覧]でも削除できます。



ユニット図の出力

ナンバリングした配管をユニット図や単品加工図としてレブロ図面で出力します。

- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[ユニット図]をクリックします。
- 2 出力するテンプレートを選択します。
- 3 出力する系統にチェックを入れます。
- 4 ユニット図に記入する項目にチェックを入れます。
- 5 [OK]をクリックします。
→[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
- 6 ファイル名を付けて[保存]をクリックします。
→レブロ図面が開き、ユニット図が表示されます。

ホーム 図形 配管 ダクト 電気 機器器具 スリーブ・インサート 建築 ツール 加工

パッキン 定尺の編集 ナンバリング 番号記入 情報削除 加工集計 **1** ユニット図 ナンバリング 番号記入 情報削除

配管加工 角ダクト加工

ユニット図

● 新規作成 ○ 既存のユニット図に追加

テンプレート
単品加工図(3段) **2**

新規作成 編集 ファイルから読み込み
名前の変更 削除 ファイルに保存

CSV形式ファイルを保存する
文字コード: 文字コード(UTF-8)

出力	系統名	項目名	内容
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-1	現場名	
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-2	図面番号	
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-3	社名	
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-4		
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-5		
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-6		
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-7		
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-8		
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-9		
<input checked="" type="checkbox"/>	CHR-10		

すべて選択 すべて解除

系統の内容が重複する場合、まとめて表示する 保温を引き継ぐ **4**

傍記の自動記入
 系統番号 弁類 継手 フランジ パッキン **4** 寸法線 設定

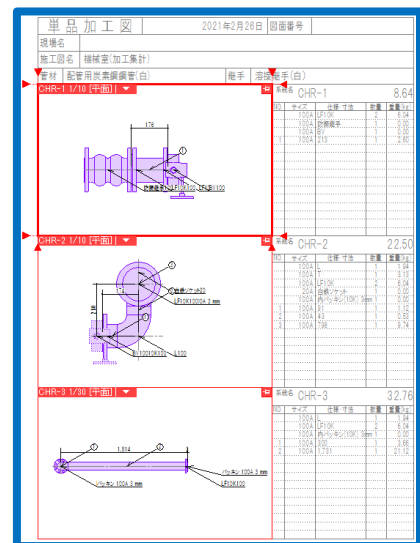
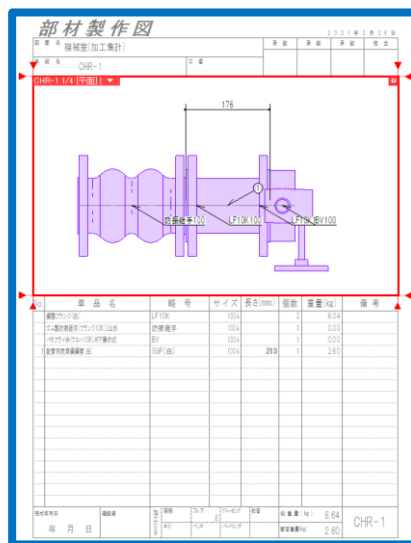
5 OK キャンセル

[CSV形式ファイルを保存する]にチェックを入れると単品図を作成する部材の一覧(系統名、系統番号、前、後継手の名称、加工方法、口径、配管長さ(芯々)、配管長さ(実長)、管材略号、管材名称、サイズ、個数)をCSV形式で保存します。

[保温を引き継ぐ]にチェックを入れると、選択した系統の保温を表示します。

ユニット図(A4)

単品加工図(3段)



ビューの方向を変更する

出力したユニット図、単品加工図は平面ビューで表示されます。

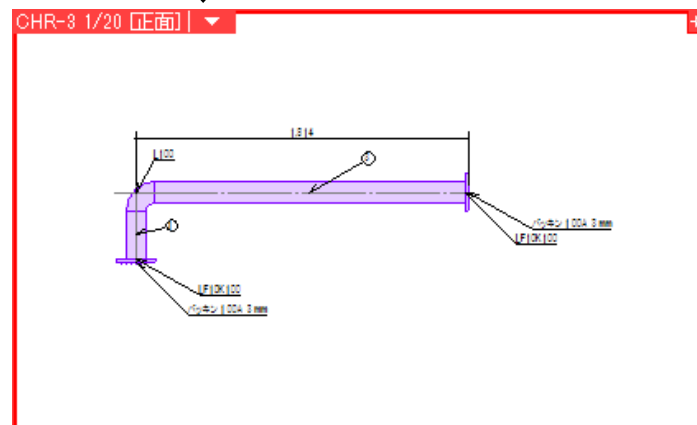
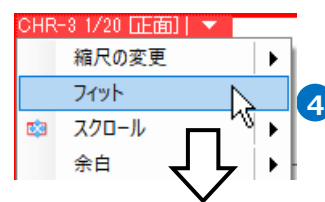
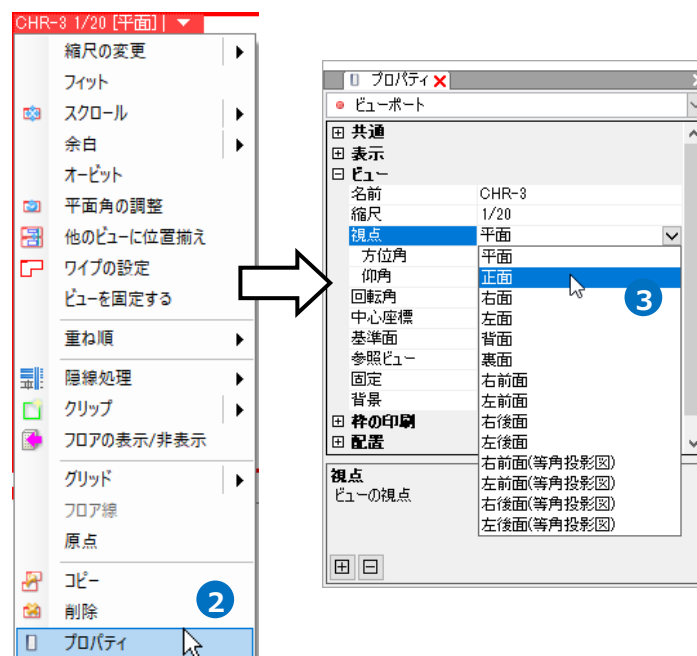
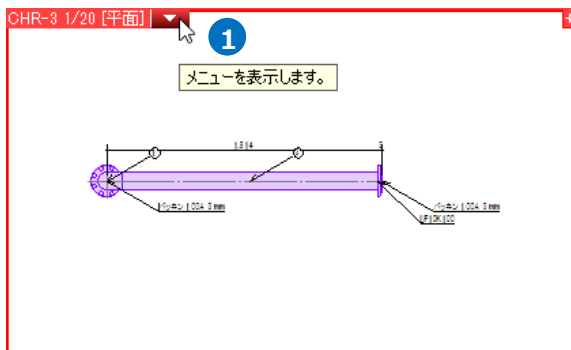
別の方向で表示する場合はビューの方向を変更します。

1 方向を変更するビューのビュー名横の [▼] をクリックします。

2 [プロパティ] を選択します。

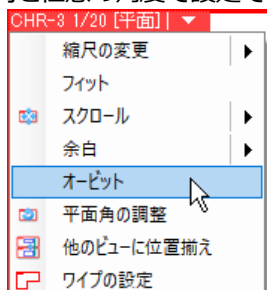
3 [視点] を「正面」に設定します。

4 ビューの方向が切り替わります。
ビュー名横の [▼] より [フィット] をクリックしてビュー内に要素が収まるように調整します。
寸法線の追加やサイズ記入の位置を調整します。

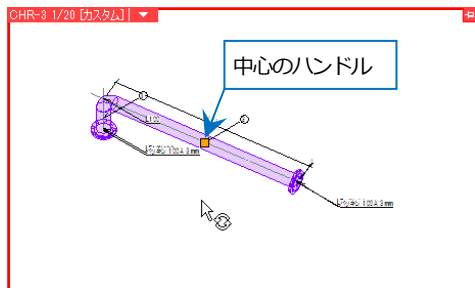


Memo

[オービット] を使用するとビューの視点方向を任意の角度で設定できます。

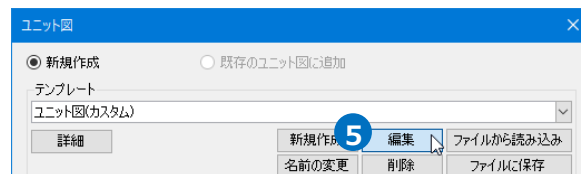
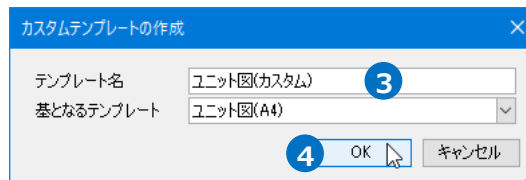
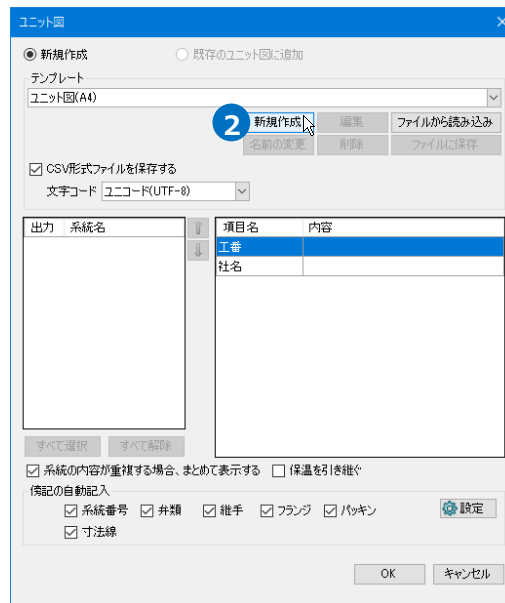


左ドラッグでハンドルを中心に回転します。



ユニット図のテンプレート編集

- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[ユニット図]をクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックします。
- 3 テンプレート名を入力し、編集の基とする既存のテンプレートを選択します。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 [編集]をクリックします。
- 6 テンプレートの編集画面が表示されます。



7 ビューの視点方向や表示内容を変更することができます。文字はペーパーモードに切り替えて記入します。

8 上書き保存をします。

部材製作図

7

 テンプレート 1/20 [右前面]

 ビューの視点は、ビュー名横の[▼]-
[プロパティ]で変更します。

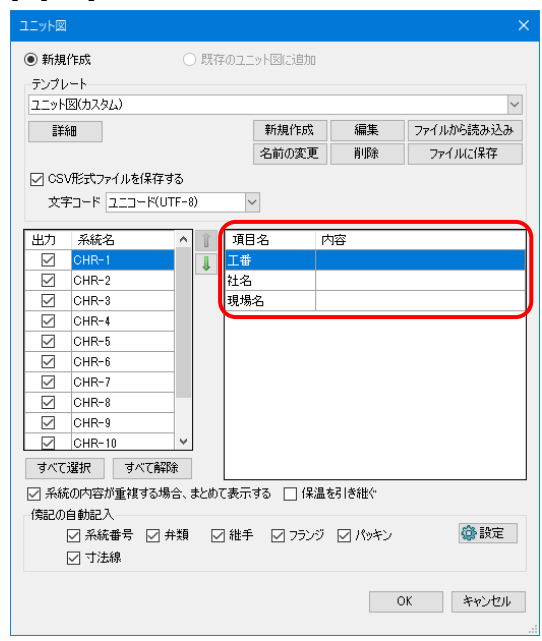
**重複数

No.	単品名	略号	サイズ	長さ(mm)	個数	重量(kg)	備考
**No	**商品名	**略号	**サイズ	**長さ	**個数	**重量	**備考
発注年月日 年 月 日	発注番号	電線 DB+ケーブル DB+ピンコネクタ DB+圧縮DB フラット DB+ケーブル DB+ピンコネクタ DB+圧縮DB プラстик DB+ケーブル DB+ピンコネクタ DB+圧縮DB 銅線 DB+ケーブル DB+ピンコネクタ DB+圧縮DB		総重量	配管重量	配管重量	**系統名
				**現場名			**社名

Memo

罫線を編集する場合、罫線のレイヤーは非検索の状態のため、要素選択ができません。Alt キーを長押しして要素選択をするか、[レイヤー一覧]で「図枠」レイヤーを検索に変更してください。

先頭に「***」をつけた文字列をテンプレートに作図すると、[ユニット図]のダイアログの[項目名]に表示されます。
 [項目名]は[内容]を入力するとユニット図や単品加工図に記入されます。



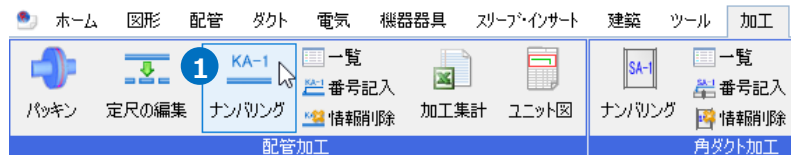
4.加工集計表の作成

「機械室(加工集計).reb」を開きます。

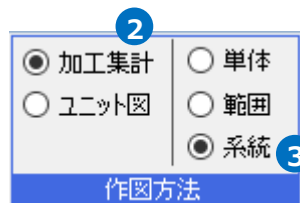
加工集計のナンバリング

加工集計を作成するための系統名、系統番号を設定します。

- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[ナンバリング]をクリックします。



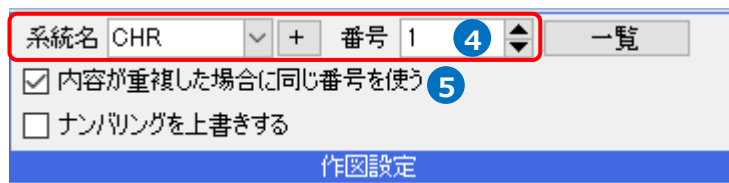
- 2 「加工集計」を選択します。



- 3 「系統」を選択します。

- 4 系統名「CHR」、番号「1」と入力します。

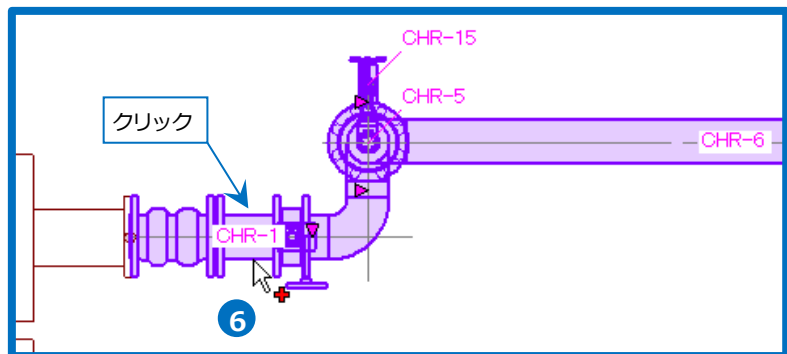
- 5 [内容が重複した場合に同じ番号を使う]にチェックを入れます。



- 6 番号を設定する配管を選択します。

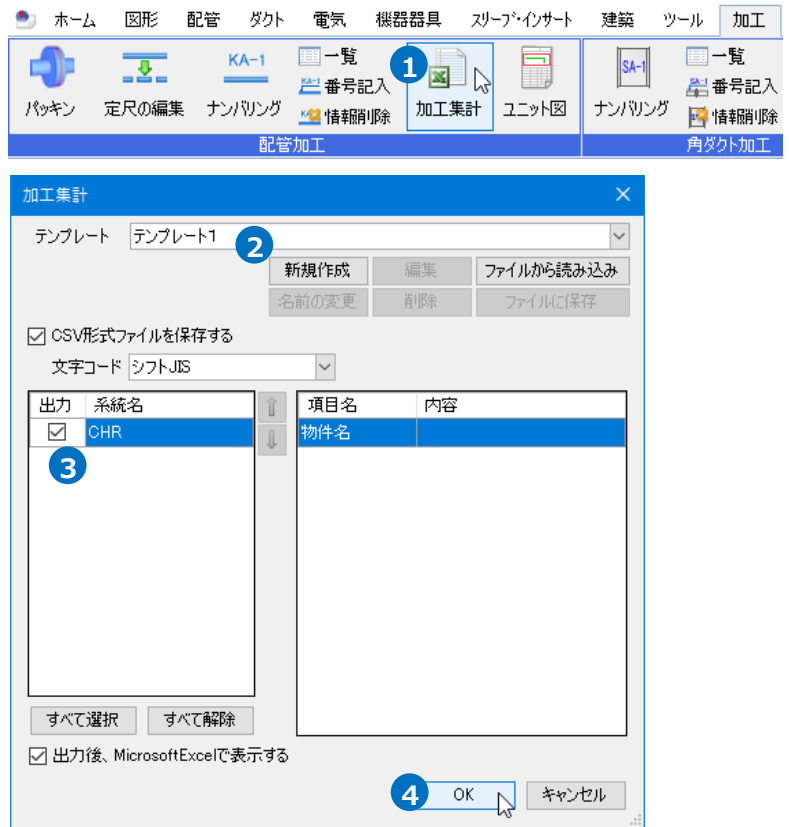
- 7 コンテキストメニューの[確定]をクリックしてコマンドを終了します。

- 8 同様にヘッダーと繋がるルートもナンバリングします。



加工集計表を作成する

- ① [加工]タブ-[配管加工]-[加工集計]をクリックします。
- ② 出力するテンプレートを選択します。
- ③ 出力する系統にチェックを入れます。
- ④ [OK]をクリックします。
→[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
- ⑤ ファイル名を付けて[保存]をクリックします。
→Microsoft Excel が起動し、加工集計表が表示されます。



テンプレート1

⑤

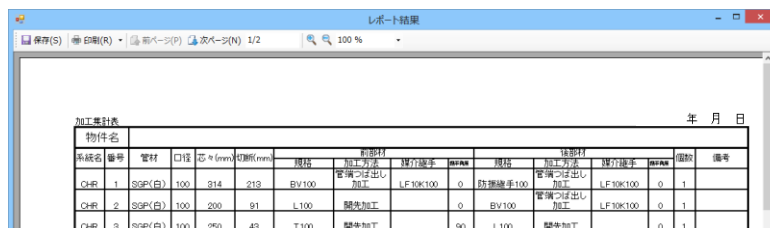
加工集計表													年 月 日		
物件名															
系統名	番号	管材	口径	芯々(mm)	切断(mm)	前部材				後部材				個数	備考
規格	加工方法	継手	継手角度	規格	加工方法	継手	継手角度	規格	加工方法	継手	継手角度	個数	備考		
CHR	1	SGP(白)	100	314	213	EV100	管端つば出し加工	LF10K100	0	防振継手100	管端つば出し加工	LF10K100	0	1	
CHR	2	SGP(白)	100	200	91	L100	開先加工		0	EV100	管端つば出し加工	LF10K100	0	1	
CHR	3	SGP(白)	100	250	43	T100	開先加工		90	L100	開先加工		0	1	

テンプレート2

物件名		加工範囲		サビ止め		パイプ重量							
工番	依頼先	管材	SGP(白)	継手	管径	切断	個数	備考	配管重量	前継手重量			
系統	番号	前継手	口径	継手方向	継手方向	後継手	芯々 mm	切断 mm	個数	備考			
CHR	1	LF10K100	100	⊕	⊕	LF10K100	176	213	1		2.5986	0	
CHR	2	L100	100	└	⊕	LF10K100	174	91	1		1.1102	1.94	
CHR	3	T100	100	└	└	L100	250	43	1		0.5246	3.13	

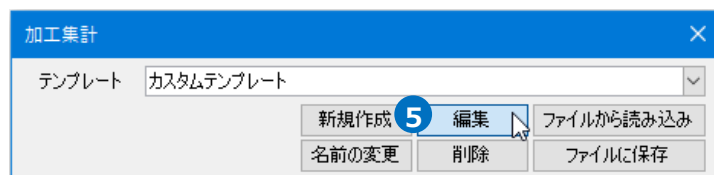
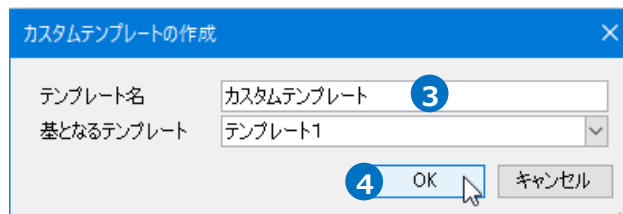
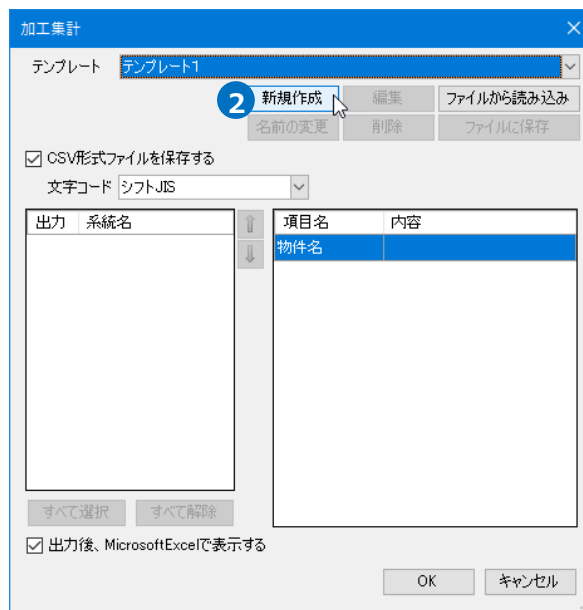
● 補足説明

Microsoft Excel がインストールされていない場合は専用のビューアが起動します。専用ビューアからは印刷、PDFファイルの保存ができます。



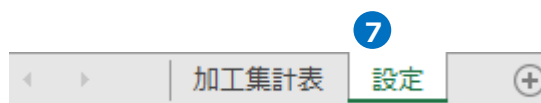
加工集計のテンプレート編集

- 1 [加工]タブ-[配管加工]-[加工集計]を選択します。
- 2 [新規作成]をクリックします。
- 3 テンプレート名を入力し、編集の基とする既存のテンプレートを選択します。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 [編集]をクリックします。
- 6 テンプレートの編集画面が表示されます。



加工集計表													**日付		
物件名	**物件名														
系統名	番号	管材	口径	芯径 (mm)	切断 (mm)	前部材			後部材			備註	備考		
						規格	加工方法	継手	規格	加工方法	継手				
**系統	**系統番号	**管材番号	**口径	**芯径	**長さ	**長さ	**前継手	**前加工方法	**前継手	**後継手	**後加工方法	**後継手	**備考	**備考	**Start
6															
**End															

- 7 ワークシートを[設定]に切り替えると編集できる内容が表示されます。



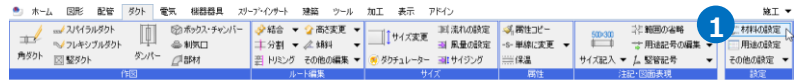
5.角ダクト単品図の作成

「ダクト単品図.reb」を開きます。

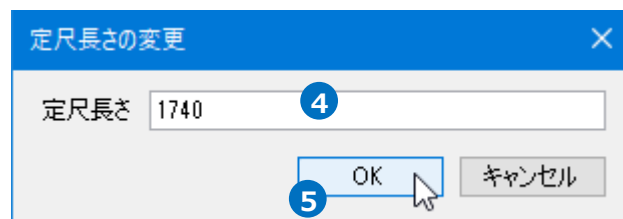
定尺長さの設定

ダクトの定尺長さは[材料の設定]で設定します。

- 1 [ダクト]タブ-[材料の設定]をクリックします。
- 2 定尺長さを変更するサブセットを選択します。
- 3 [定尺長さ]をクリックします。
- 4 定尺長さを入力します。
- 5 [OK]をクリックします。



Memo
[板厚]をクリックすると、サイズごとに板厚の設定をすることができます。

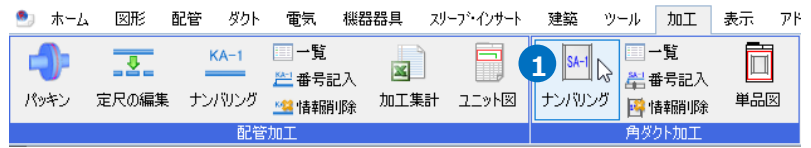


ダクト単品図のナンバリング

ダクト単品図を作成するための系統名、系統番号を設定します。

- 1 [加工]タブ-[角ダクト加工]-[ナンバリング]をクリックします。

- 2 「系統」を選択します。

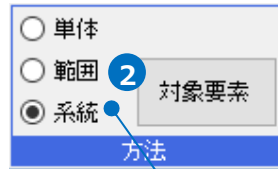


Memo
[対象要素]は範囲、系統で選択した時にナンバリングをする対象の設定ができます。

ナンバリングの対象要素

- ダクト
 - 直管
 - ダンボールダクト(矩形)
 - ダクト局部
 - エルボ
 - 割込み
 - T字分岐
 - 二方分岐(直立て)
 - 二方分岐
 - 二方分岐(エルボ片立て)
 - 二方分岐(T字)
 - 二方分岐(フタマタ)
 - 三方分岐
 - ホッパ
 - 角丸ホッパ

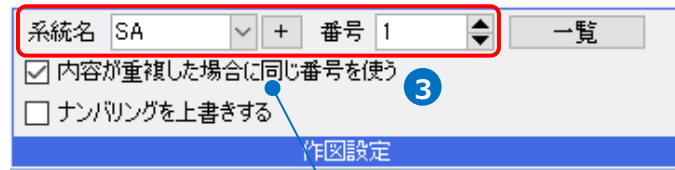
すべて選択 すべて解除
OK キャンセル



「単体」
ダクトを1つずつ指定してナンバリングします。

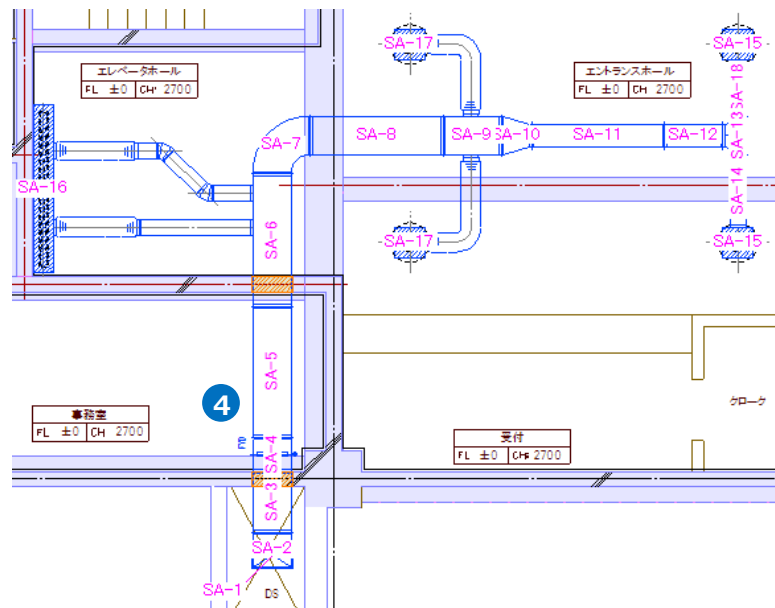
「範囲」
1系統内のダクトを2つ指定し、その間をナンバリングします。

「系統」
1系統のダクトをまとめてナンバリングします。



[内容が重複した場合に同じ番号を使う]にチェックを入れると、選択した系統内で材料、形状、継手が同じダクトには同じ番号をつけます。

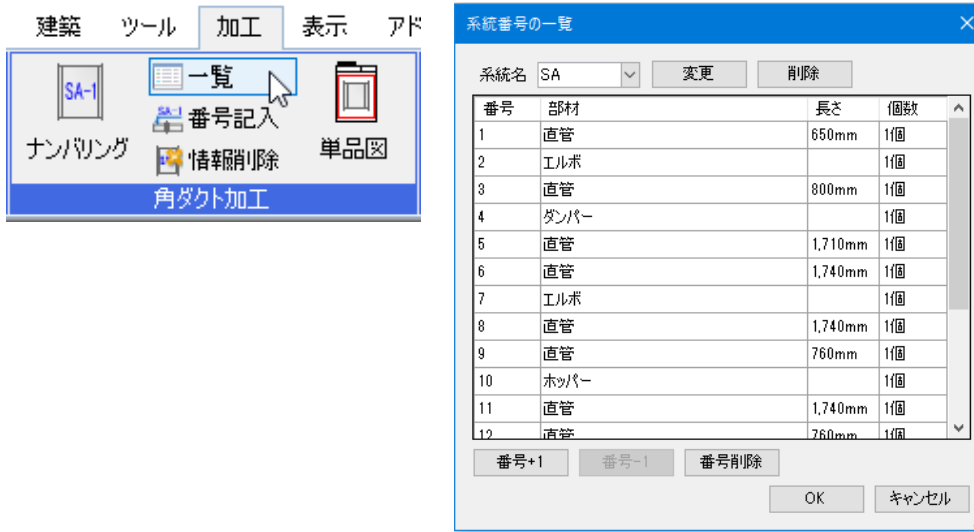
- 3 系統名「SA」、番号「1」と入力します。
- 4 番号を設定するダクトをクリックします。
- 5 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。



- 補足説明

[系統番号の一覧]

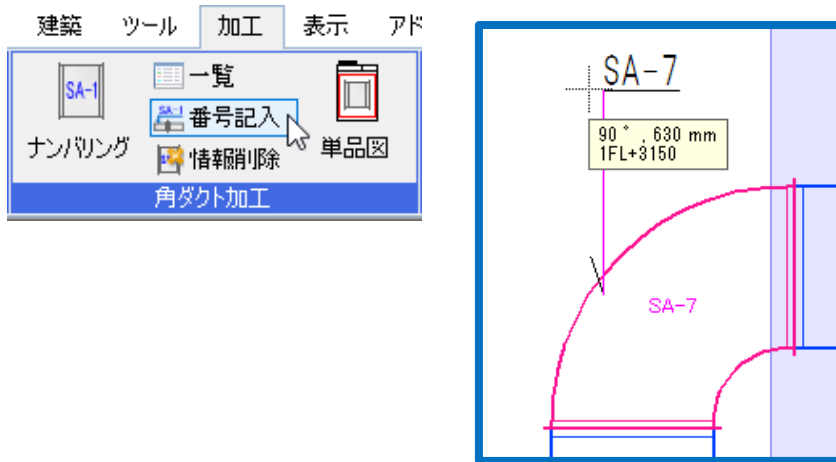
ナンバリングでつけた系統名と番号を確認、編集できます。



[角ダクト加工の番号記入]

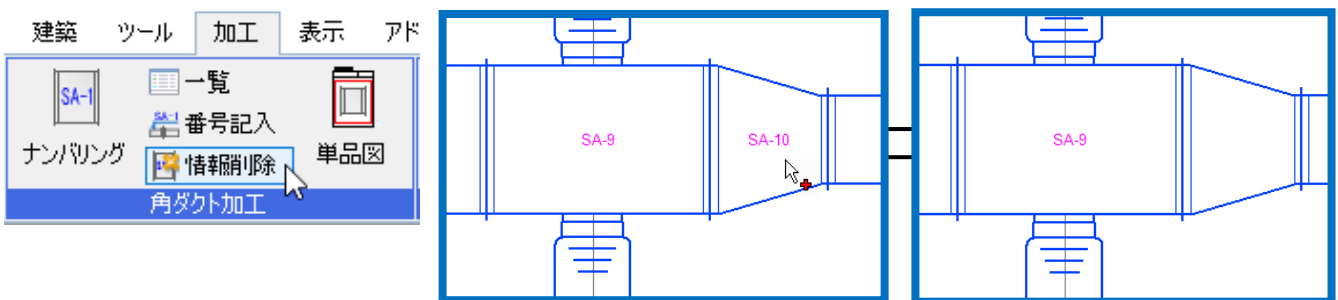
ナンバリングの番号は[ナンバリング]コマンドを終了すると非表示になります。

[加工]タブ-[番号記入]のコマンドで図面に表記します。



[角ダクト加工の情報削除]

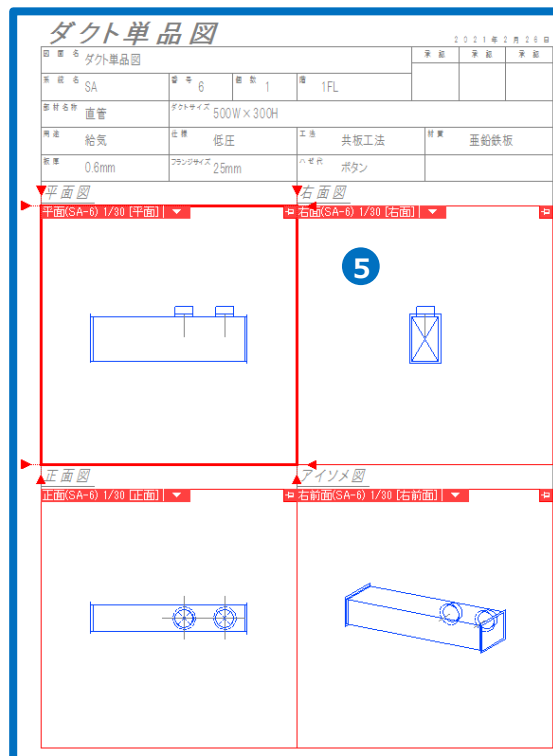
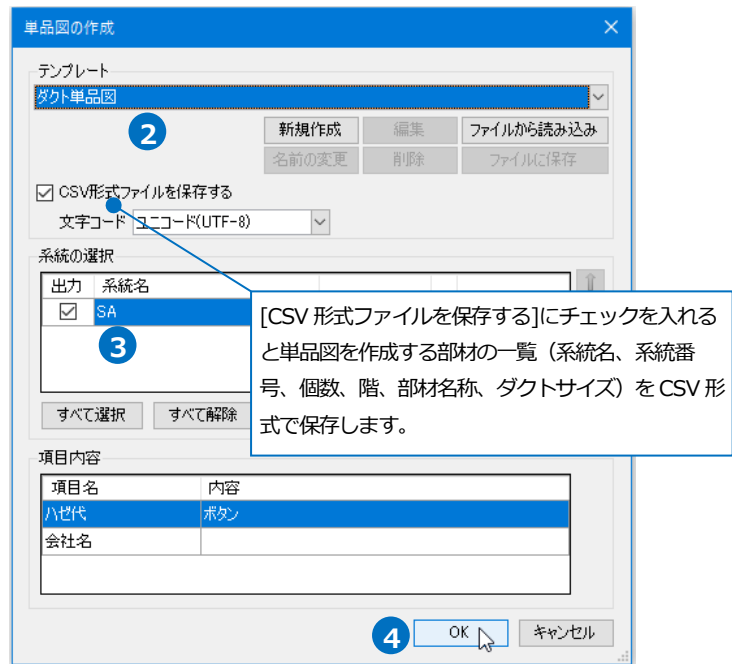
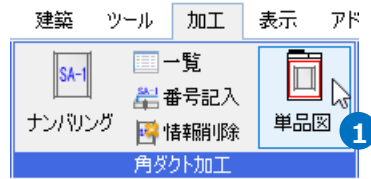
指定したダクトの系統名と番号を削除します。[系統番号の一覧]でも削除できます。



ダクト単品図の出力

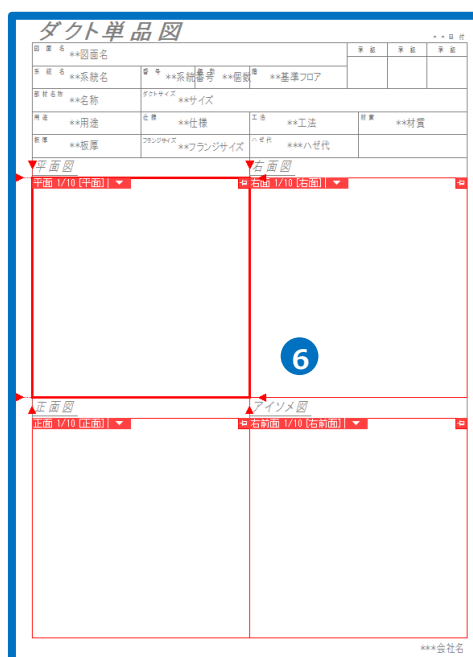
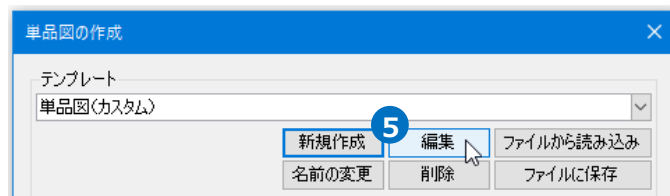
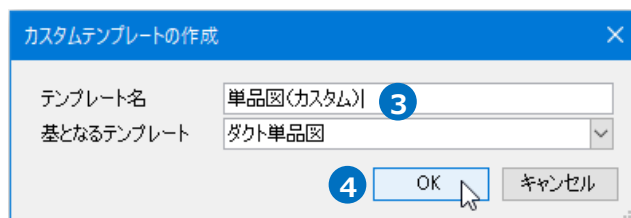
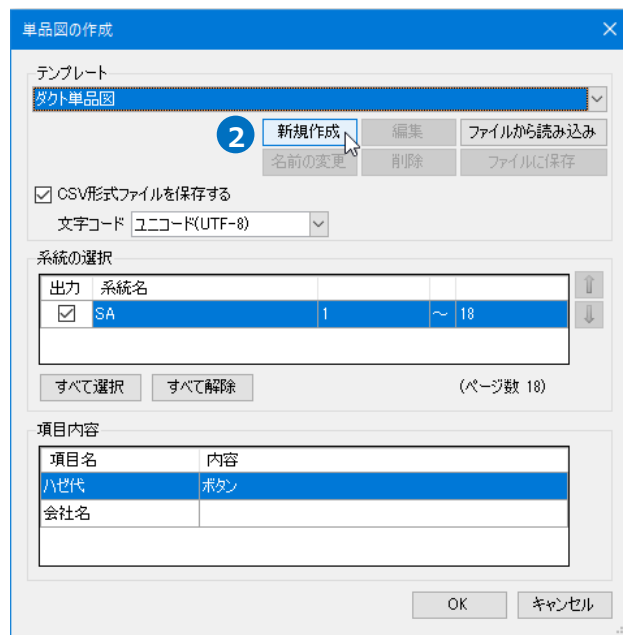
ナンバリングしたダクトをダクト単品図としてレプロ図面で出力します。

- 1 [加工]タブ-[角ダクト加工]-[単品図]をクリックします。
- 2 出力するテンプレートを選択します。
- 3 出力する系統にチェックを入れ、系統番号の範囲を選択します。
- 4 [OK]をクリックします。
→[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
- 5 ファイル名を付けて[保存]をクリックします。
→レプロ図面が開き、ダクト単品図が表示されます。



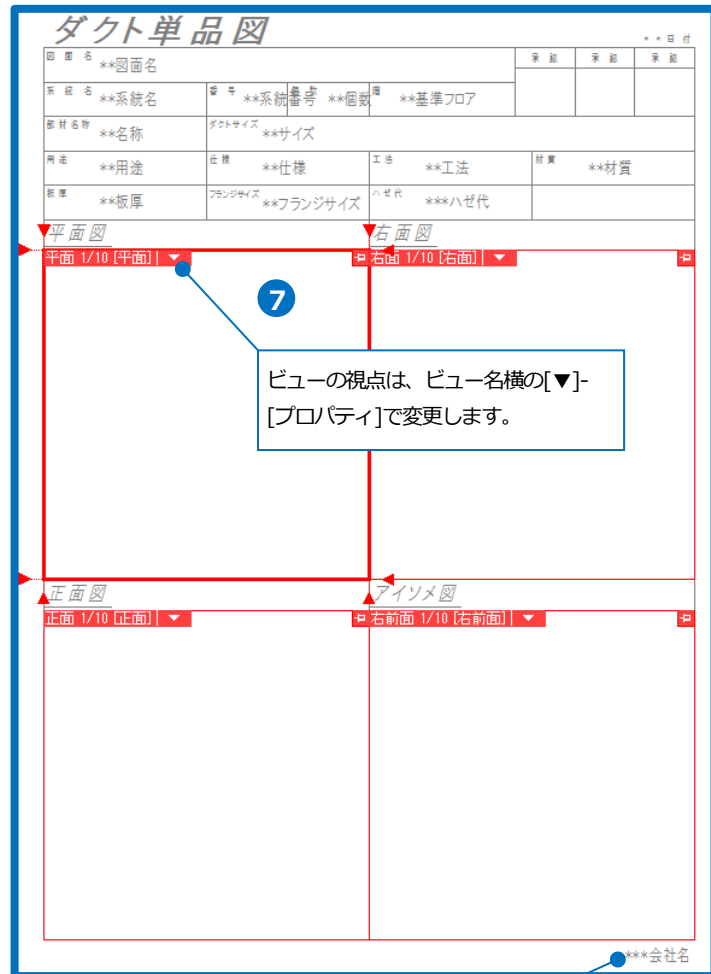
ダクト単品図のテンプレート編集

- 1 [加工]タブ-[角ダクト加工]-[単品図]をクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックします。
- 3 テンプレート名を入力し、編集の基とする既存のテンプレートを選択します。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 [編集]をクリックします。
- 6 テンプレートの編集画面が表示されます。



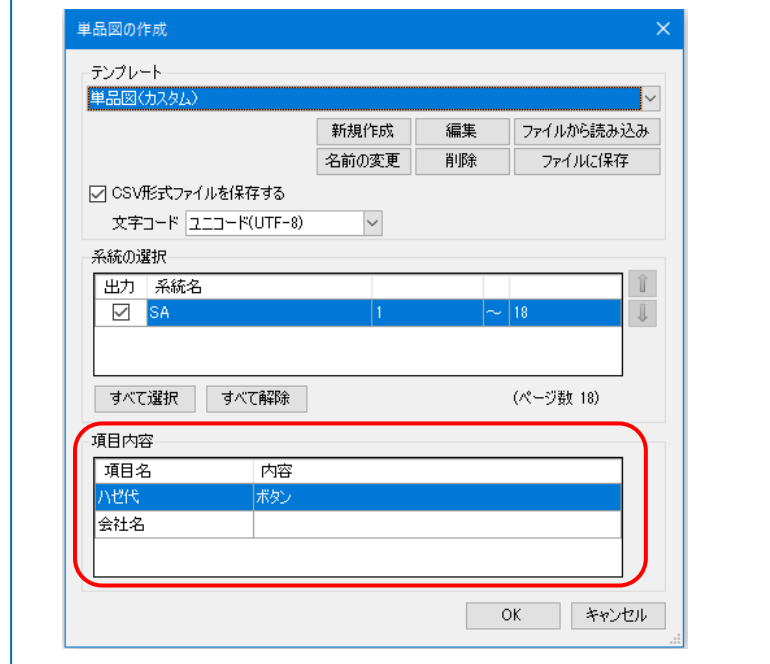
7 ビューの視点方向や表示内容を変更することができます。文字はペーパーモードに切り替えて記入します。

8 上書き保存をします。



先頭に「***」をつけた文字列をテンプレートに作図すると、[単品図の作成]ダイアログの[項目名]に表示されます。

[項目名]は[内容]を入力すると単品図に記入されます。

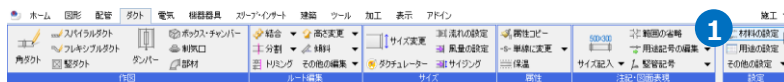


6. スパイラルダクト加工図の作成

定尺長さの設定

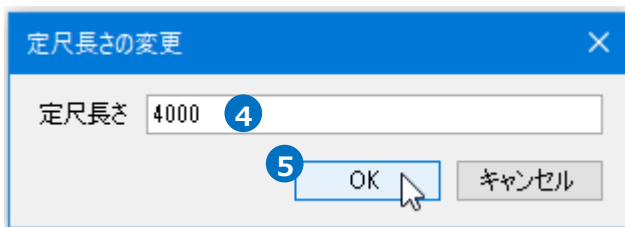
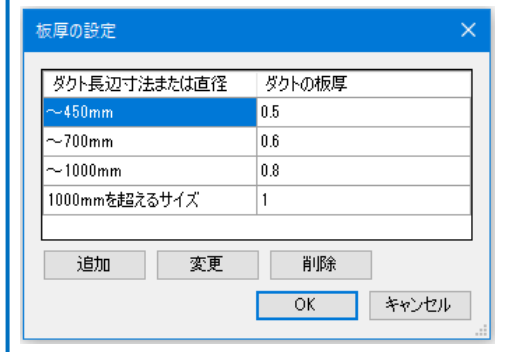
スパイラルダクトの定尺長さは[材料の設定]で設定します。

- 1 [ダクト]タブ-[材料の設定]をクリックします。
- 2 定尺長さを変更するサブセットを選択します。
- 3 [定尺長さ]をクリックします。
- 4 定尺長さを入力します。
- 5 [OK]をクリックします。



Memo

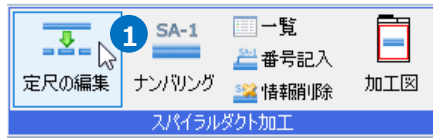
[板厚]をクリックすると、サイズごとに板厚の設定をすることができます。



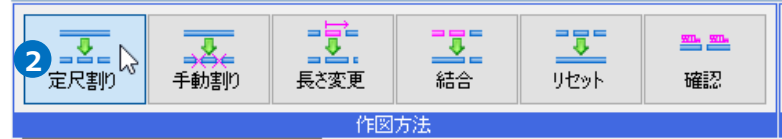
定尺で割る

指定したスパイラルダクトを定尺長さで管割します。

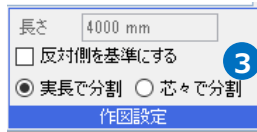
- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-
[定尺の編集]をクリックします。



- 2 [定尺割り]を選択します。



- 3 定尺割りの基準を選択します。

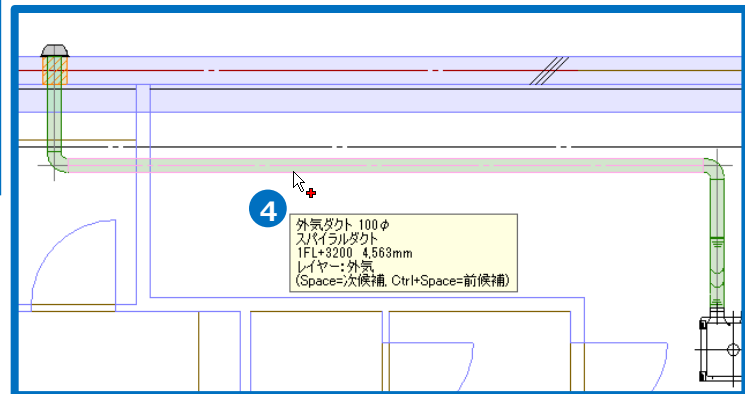


Memo

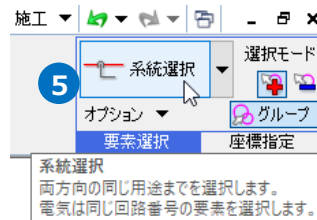
「実長で分割」
スパイラルダクトの直管を定尺長さで分割します。

「芯々で分割」
スパイラルダクトとスパイラルダクト継手の交点までの長さを定尺で分割します。

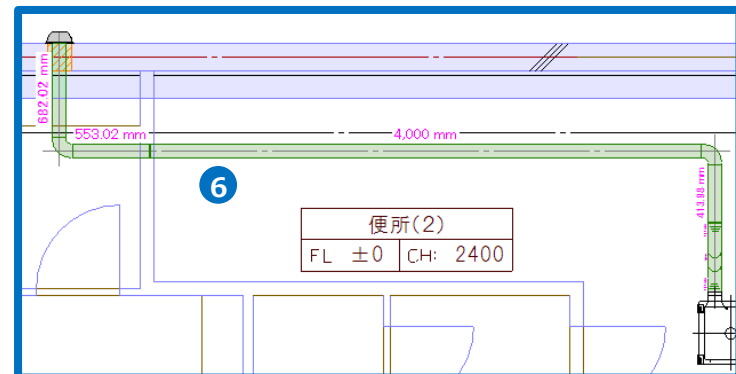
- 4 スパイラルダクトルートを一本クリックします。



- 5 [系統選択]をクリックします。
→1 系統がすべて選択されます。



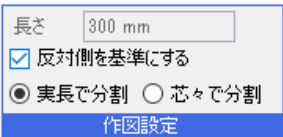
- 6 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。
→定尺で分割されます。



Memo

[設定]-[一般]タブ-[ダクト]-[作図規則]の [定尺で分割する]にチェックが入っていると、作図時に定尺長さで分割します。

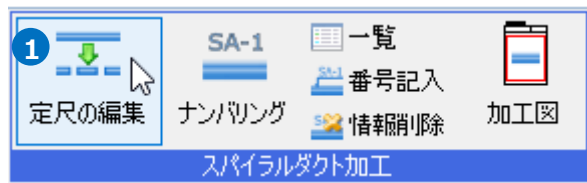
定尺割りする方向を変更する場合、[定尺割り]で[反対側を基準にする]にチェックを入れ、変更するルートをすべて選択します。



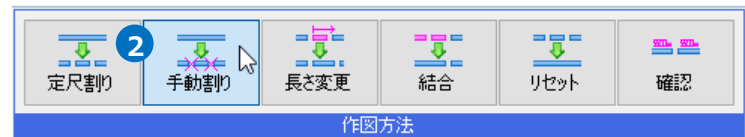
指定長さで割る

指定したスパイラルダクトを[長さ]に入力した値で管割します。

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-
[定尺の編集]をクリックします。

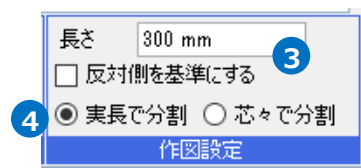


- 2 [手動割り]を選択します。



- 3 [長さ]を「300mm」と入力します。

- 4 管割の基準を選択します。

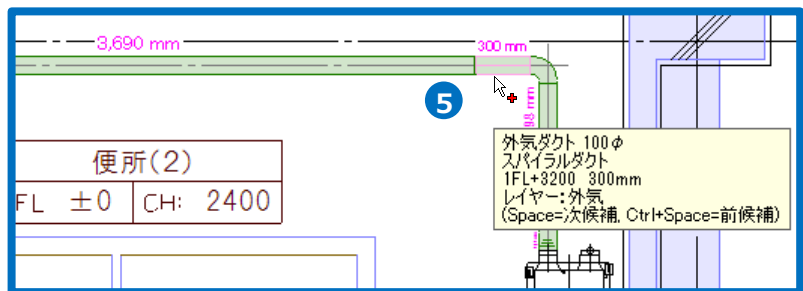


Memo

[反対側を基準にする]にチェックを入れると、ルートで作図方向と反対側から管割を行います。

長さ 300 mm
 反対側を基準にする
 実長で分割 芯々で分割
作図設定

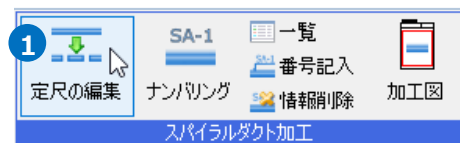
- 5 スパイラルダクトルートを1本選択します。
→指定した長さで管割されます。



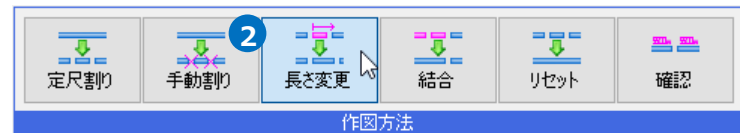
長さを変更する

指定したスパイラルダクトの長さを変更できます。

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-
[定尺の編集]をクリックします。

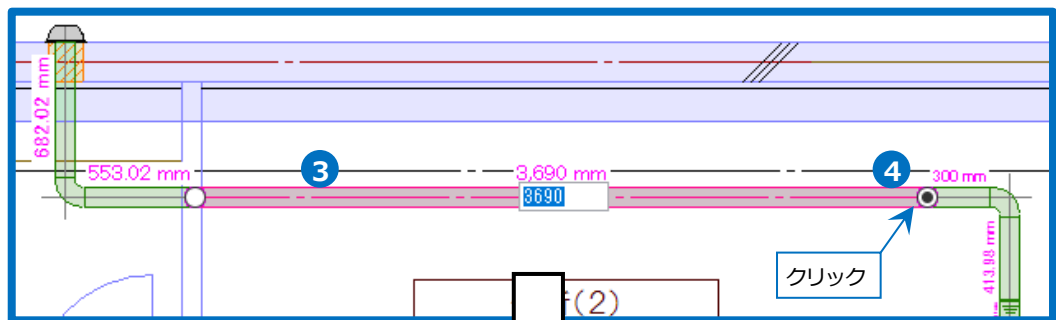


- 2 [長さ変更]を選択します。

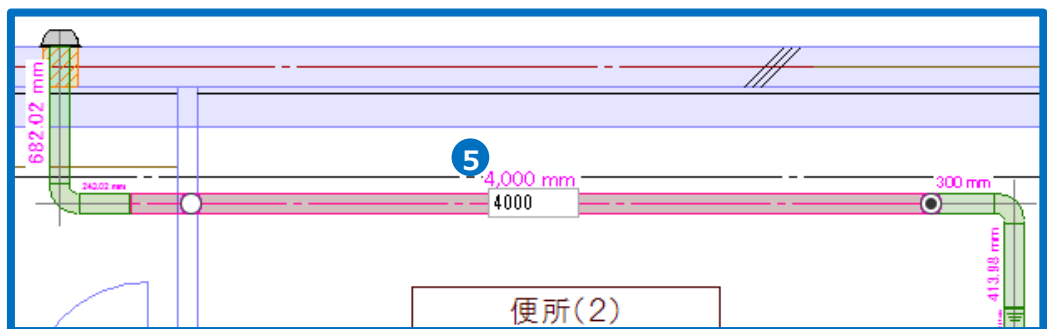


3 スパイラルダクトを選択します。

4 固定位置を選択します。



5 変更長さ「4000」と入力します。



6 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。

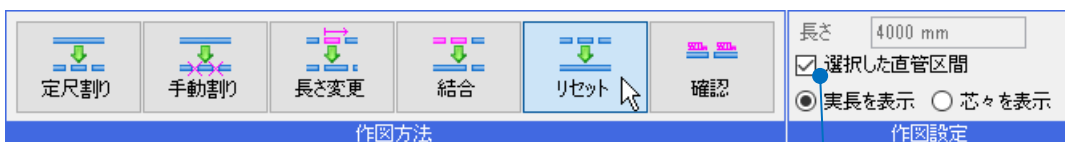
【結合】

[定尺割り]や[手動割り]をしたスパイラルダクトを2本指定するとその間のルートをすべて結合します。



【リセット】

指定したスパイラルダクトの系統の定尺割りをすべて解除します。

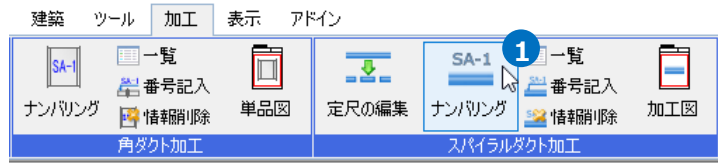


[選択した直管区間]にチェックを入れると指定したスパイラルダクトの直管区間のみ定尺割りが解除されます。

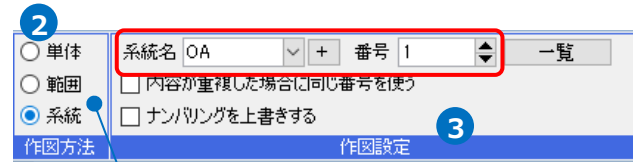
スパイラルダクト加工図のナンバリング

スパイラルダクト加工図を作成するための系統名、系統番号を設定します。

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-[ナンバリング]をクリックします。



- 2 「系統」を選択します。



- 3 系統名「OA」、番号「1」と入力します。

Memo

「単体」を選択した場合、スパイラルダクトの端部に接続している継手で、ユニットに含める方の継手にチェックを入れます。

1ユニットとして含める継手

前継手 後継手

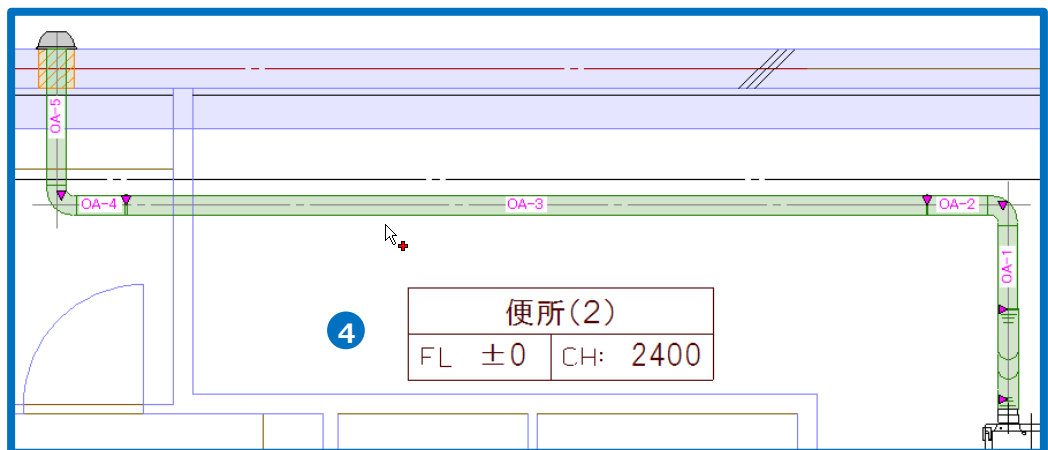
加工図の設定

「単体」
スパイラルダクトを1つずつ指定してナンバリングします。

「範囲」
1系統内のスパイラルダクトを2つ指定し、その間をナンバリングします。

「系統」
1系統のスパイラルダクトをまとめてナンバリングします。

- 4 スパイラルダクトを選択します
→スパイラルダクト1本ごとに番号が繰り上ります。

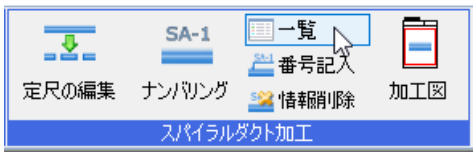


- 5 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。

● 補足説明

[系統番号の一覧]

ナンバリングでつけた系統名と番号を確認、編集できます。



系統番号の一覧

系統名: OA

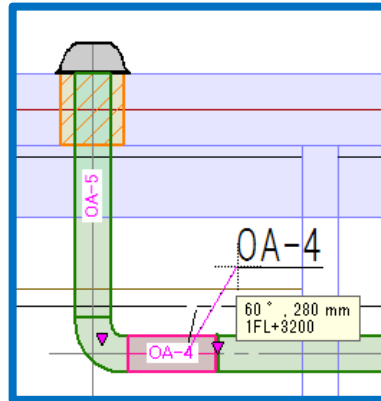
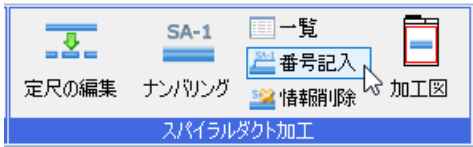
番号	長さ(実長)	前部材	後部材	個数
1	414mm	差込継手 100	L100	1
2	300mm	L100	差込継手 100	1
3	4,000mm	差込継手 100	差込継手 100	1
4	243mm	差込継手 100	L100	1
5	682mm	L100	VC100φ	1

番号+1 番号-1 番号削除 OK キャンセル

[スパイラルダクト加工の番号記入]

ナンバリングの番号は[ナンバリング]コマンドを終了すると非表示になります。

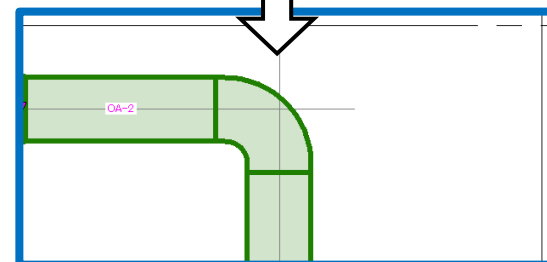
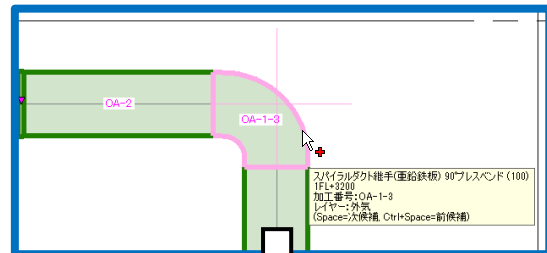
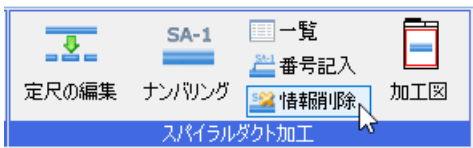
[加工]タブ-[番号記入]のコマンドで図面に表記します。



[スパイラルダクト加工の情報削除]

指定したスパイラルダクトの系統名と番号を削除します。

[系統番号の一覧]でも削除できます。

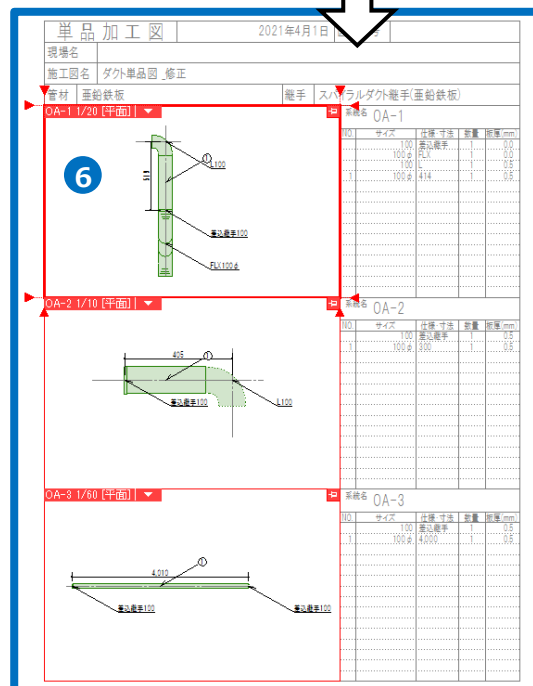
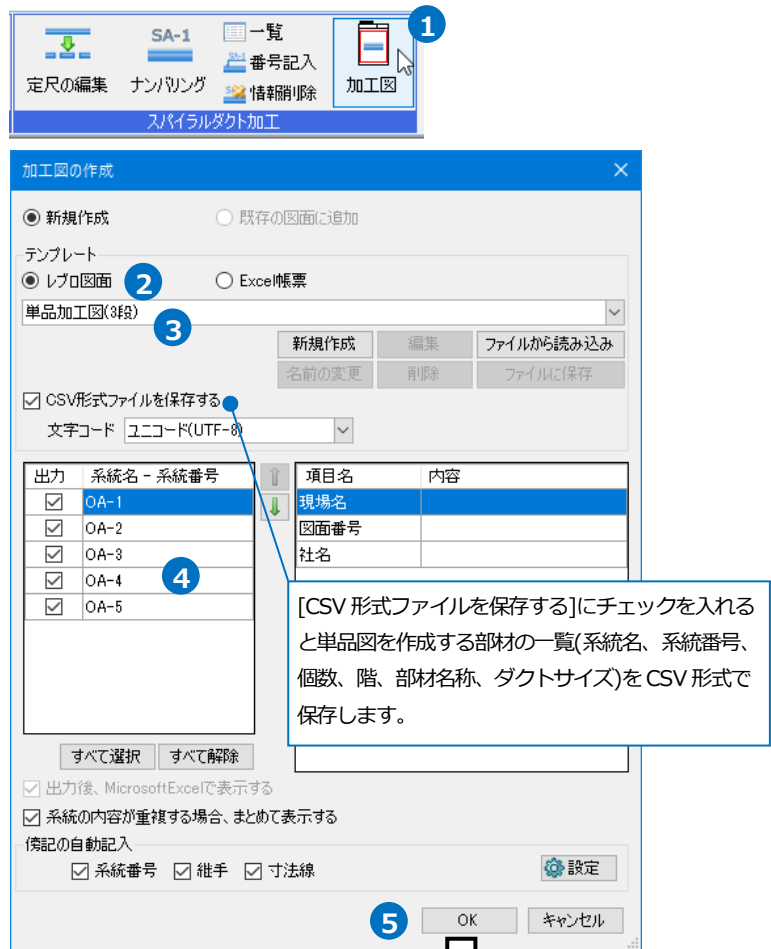


スパイラルダクト加工図の出力

ナンバリングしたスパイラルダクトをスパイラルダクト加工図として出力します。

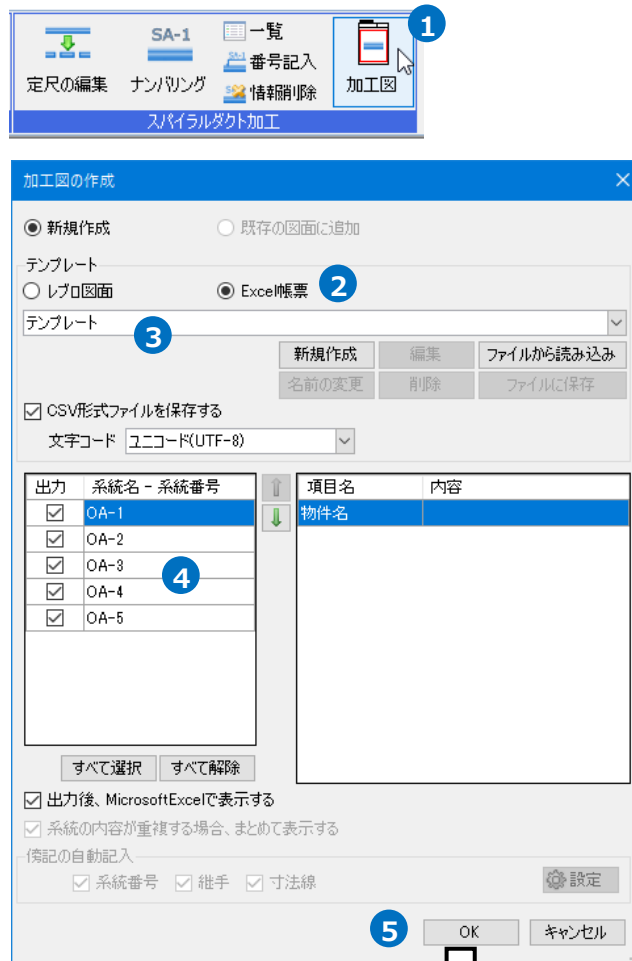
レプロ図面での出力

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-[加工図]をクリックします。
- 2 テンプレートの種類「レプロ図面」を選択します。
- 3 出力するテンプレートを選択します。
- 4 出力する系統にチェックを入れ、系統番号の範囲を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。
→[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
- 6 ファイル名を付けて[保存]をクリックします。
→レプロ図面が開き、スパイラルダクト加工図が表示されます。



Excel 帳票で加工集計出力

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-[加工図]をクリックします。
- 2 テンプレートの種類「Excel 帳票」を選択します。
- 3 出力するテンプレートを選択します。
- 4 出力する系統にチェックを入れ、系統番号の範囲を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。
→[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
- 6 ファイル名を付けて[保存]をクリックします。
→Microsoft Excel が起動し、加工集計表が表示されます。

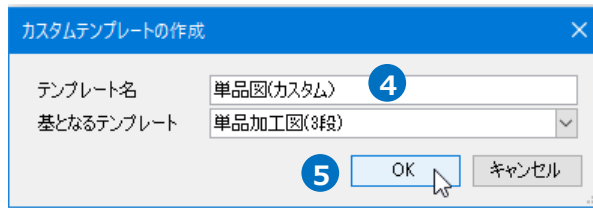


加工集計表														年月日		
物件名		系統名	番号	管材	口径	芯々(mm)	切断(mm)	板厚(mm)	前部材			後部材			個数	備考
									規格	継手角度	板厚(mm)	規格	継手角度	板厚(mm)		
OA	1			SP	100	519	414	0.5	差込継手100	0	0	L100	0	0.5	1	
OA	2			SP	100	405	300	0.5	L100	0	0.5	差込継手100	0	0.5	1	
OA	3			SP	100	4,010	4,000	0.5	差込継手100	0	0.5	差込継手100	0	0.5	1	
OA	4			SP	100	348	243	0.5	差込継手100	0	0.5	L100	0	0.5	1	
OA	5			SP	100	782	682	0.5	L100	0	0.5	VC100φ	0	0.5	1	

スパイラルダクト加工図のテンプレート編集

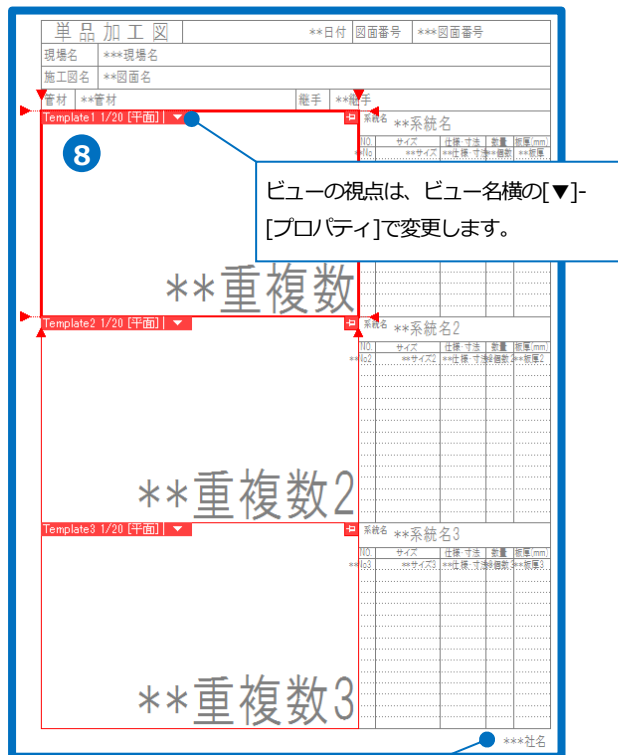
レブロ図面

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-[加工図]をクリックします。
- 2 テンプレートで「レブロ図面」を選択します。
- 3 [新規作成]をクリックします。
- 4 テンプレート名を入力し、編集の基とする既存のテンプレートを選択します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 [編集]をクリックします。
- 7 テンプレートの編集画面が表示されます。

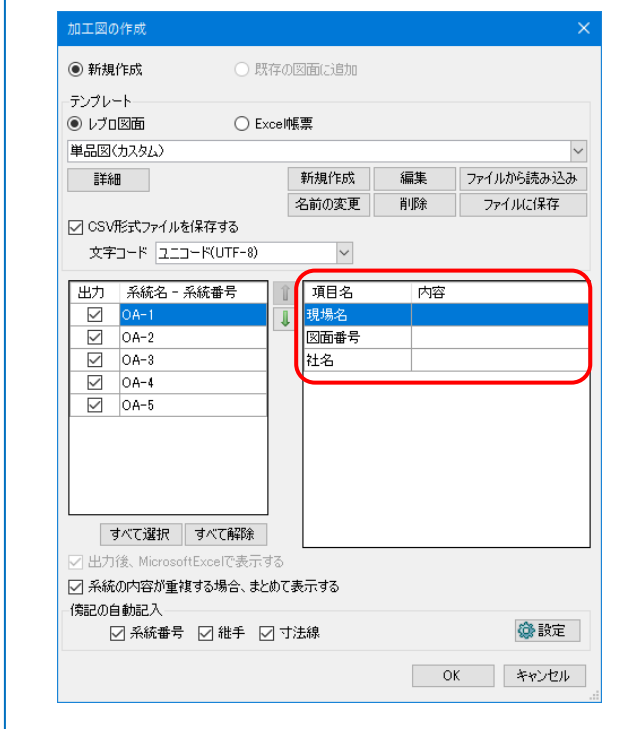


8 ビューの視点方向や表示内容を変更することができます。文字はペーパーモードに切り替えて記入します。

9 上書き保存をします。

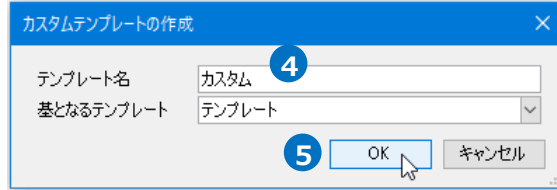


先頭に「***」をつけた文字列をテンプレートに作図すると、[加工図の作成]のダイアログの[項目名]に表示されます。
[項目名]は[内容]を入力すると単品図に記入されます。



Excel 帳票

- 1 [加工]タブ-[スパイラルダクト加工]-[加工図]をクリックします。
- 2 テンプレートで「Excel 帳票」を選択します。
- 3 [新規作成]をクリックします。
- 4 テンプレート名を入力し、編集の基とする既存のテンプレートを選択します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 [編集]をクリックします。
- 7 Microsoft Excel が起動し、テンプレートの編集画面が表示されます。
- 8 ワークシートを[設定]に切り替えると編集できる内容が表示されます。



物件名		前製材										後製材		備考
系統名	番号	管材	口径 (mm)	切斷 (mm)	板厚 (mm)	規格	継手角度	板厚 (mm)	規格	継手角度	板厚 (mm)	備考	備考	
**系統	**組立	**管材	**口径	**切斷	**板厚	**規格	**継手角度	**板厚	**規格	**継手角度	**板厚	**備考	**備考	

